

『歴代宝案』第一集の編集者達

富島 壯英

『歴代宝案』第一集の序文には、

歴代の宝案は、天妃宮に所蔵されて久しく、永い時代を経てきたので破損散逸の恐れがある。時の国相の尚弘才、法司(三司官)の向世俊・毛克盛・毛見龍はこれを非常に心配した。命令により紫金大夫の蔡鐸、長史の蔡應祥・鄭士綸は、旧案を重修(重ねて編集)した。一部四十九冊の写本を二部作成して、一部は王城に進献し、一部は天妃宮に所蔵した。康熙三十六(一六九七)年丁丑四月四日に開始して、十一月三十日終了した。

と記し、督抄官四名・考訂官五名・筆帖式二十名の位階・氏名等が列記されている。この序文を単純に読むと、紫金大夫(親方)の蔡鐸、長史の蔡應祥・鄭士綸が重修したかにとれ、今日まで蔡鐸らが「編集」「監修」したといわれている。

しかし、紫金大夫の蔡鐸は、当時の久米村総役(久米村の行政長官、総理唐栄司ともいう)で、長史はその下で行政事務を処理する書記である。従って、序文の「随令紫金大夫蔡鐸長史蔡應祥鄭士綸重修旧案」は、「旧案の重修」の命を久米村の行政の長・書記が受けた、という程度に理解すべきであろう。蔡鐸・蔡應祥・鄭士綸は、久米村の行政の当事者として『歴代宝案』の編集に間接的に係わったのであり、直接的に編集に関与しているわけではない。蔡鐸の家譜によれば、『歴代宝案』の編

集された康熙三十六年四月三十日に「国譜」(いわゆる蔡鐸本『中山世譜』)の編纂の命を受け、四年余その編纂に従事しており、『歴代宝案』編集に関する記録はない。また長史の蔡應祥・鄭士綸の家譜にも、『歴代宝案』編集に関する記録はない。

『歴代宝案』編集の当事者は、序文に列挙されている督抄官四名・考訂官五名・筆帖式二十名の計二十九名であろう。筆帖式は、字を写す官吏のことであるから、専ら「旧案」の筆写に従事したであろう。秀才・通事の位階で、数え年十六才から二五才の者が充てられている。考訂官は、筆写の間違い等を訂正する校訂に従事したであろう。通事・都通事(親雲上・通事親雲上)の位階で、二七才から三六才の者が充てられている。督抄官は、筆写から文書の分類・巻別編成にいたるまで、一般的な編集の推進・監督に従事したであろう。中議大夫・正議大夫(親雲上)の位階で、四三才から五七才の者が充てられている。

『歴代宝案』の編集事業に直接係わった督抄官四名・考訂官五名・筆帖式二十名の計二十九名のうち、家譜やその写しの現存が確認できるのは二三名である。これに、久米村の行政機関の当事者として間接的に係わった蔡鐸・蔡應祥・鄭士綸の三名を加えて、二六名の年譜を史料として紹介する。これらの編集関係者を概観すると、相互に子弟・親戚関係者が非常に多いことが注目される。

久米村総役の蔡鐸の長男が筆帖式の蔡淵志多伯里之子で、次男が蔡温志多伯秀才、督抄官の梁邦基内間親雲上は甥である。梁邦基と筆帖式の梁烟国吉通事は叔父・甥の関係である。督抄官の鄭宗徳宮城親雲上の長男が長史の鄭士綸、次男が筆帖式の鄭士経宮城通事、三男が鄭士絢宮城通事、四男が鄭士綬宮城秀才である。督抄官の鄭明良湊川親雲上の長男

が筆帖式の鄭国棟湊川秀才である。考訂官の蔡灼喜友名通事親雲上の甥が筆帖式の蔡燠である。考訂官の毛文哲奥間通事親雲上の甥が筆帖式の毛士豊・毛士弘・毛日新で、毛士豊・毛士弘は兄弟である。長史の蔡應祥の四男が筆帖式の蔡績大田秀才である。後に久米村総役になる程順則名護親方の弟が考訂官の程順性古波蔵通事親雲上で、長男が筆帖式の程搏九古波蔵秀才である。

家譜やその写しの現存が確認できない六名について『氏集』『中山伝信録』を参考に概観しておきたい。考訂官の毛文哲奥間通事親雲上は、万曆三五（一六〇七）年に福建省漳州府から久米村に入籍した毛国鼎の三世で、後に正議大夫に陞り、康熙四八（一七〇九）年の貢使である。

考訂官の阮維徳天久通事親雲上は、毛国鼎と共に漳州府から久米村に入籍した阮国の四世である。筆帖式の鄭士経宮城通事は、督抄官の鄭宗徳宮城親雲上の次男で、同じく筆帖式の鄭士絢宮城通事は三男である。筆帖式の蔡文漢高良通事は、長史の蔡應祥の兄の蔡應瑞高良親雲上の次男で、後に都通事に陞った。筆帖式の梁得宗外間秀才は、琉球籍から久米村に移籍した梁守徳の四世のようである。

家譜の中から二、三『歴代宝案』編集に関する記事を拾ってみよう。蔡鐸志多伯親方の家譜には、康熙三六（一六九七）年の編集に関する記録はないが、康熙一六（一六七七）年の記事に、

康熙一六年丁巳二月、奉 国命、修正歴代宝案書、至戊午四月告成とある。これは、「一六七七年二月、国の命令により歴代の宝案書を整理し、翌年四月完成した」ということである。「宝案書」の宝は、貴重なものということで、案は公文書とかその下書き等のことをいう。『歴代宝案』第一集の編集に先立つことおよそ二十年前に、蔡鐸によって一年

三ヶ月を費やして一定の整理・編集が行われていたことが確認できる。第一集の序文にいう「旧案を重修す」とは、蔡鐸によって修正された古い昔の公文書・その下書き（旧案）を重ねて編集する・書き改める（重修）という意味であろう。

督抄官の梁邦基内間親雲上の家譜に「康熙三六年丁丑四月初四日、歴代入貢（進貢）の宝案、残缺するに因り、法司（三司官）の令（命令）を奉（受）け、鄭宗徳宮城親雲上・鄭明良港川親雲上と共に督抄のため、日々（毎日）天妃宮に上（行）き、十一月三十日に抄成す」とあり、また考訂官の金溥手登根通事親雲上の家譜には「予等、毎日天妃宮において選抄す」とある。督抄官以下の関係者は、毎日天妃宮に通い、欠けて不完全な外交文書から選択しながら筆写したものである。

以下、紹介する『歴代宝案』編集関係者の家譜は、沖縄県立図書館東恩納文庫所蔵の『歴代宝案顛末記』と『那覇市史』（資料篇 第一巻六家譜資料二 上・下 昭和五五年刊行）に拠った。両書に収録されていない筆帖式の楊宗詩山口秀才と蔡績大田秀才については、那覇市文化振興課所蔵の家譜の複写資料から抜粋した。記して感謝したい。

なお『歴代宝案顛末記』は、島袋全発から東恩納寛淳宛に送られた書簡と歴代宝案編集関係者の家譜の抜き書きからなる。ペン書きの原稿用紙と野紙を仮綴したもので、縦二・八センチ×横一五・三センチ、総枚数七二枚である。成立は、書簡に「故伊差川世瑞」とあるので、昭和十二年三月以降と思われる。収録にあたり、割注は（一）に入れて一行に直し、台頭はそのまま採用したが、欠字は不統一のため無視した。また誤写とおもわれるものについては「」内に注記した。『那覇市史』から転載した蔡温の家譜の記事が多いため部分的に省略した。

I 『歴代寶案顛末記』

歴代寶案移管の顛末

校訂浄書して老部は首里政廳に老部は久米村天妃宮に保管したとある。廃藩置県の際首里城のは明治政府に引継がれ久米村のは天妃宮から明倫堂湖城家大嶺家神村家と轉々してゐた。而して唐栄人士の間では秘密文書だと云ふので、その所在を秘し、偶々人の問ふ者あれば湖城家類焼の際烏有に帰したと称したと云ふ。

昭和六年長老達の協議に依り神村家（最後の唐栄司即久米村總役の出た家）から天尊廟内の事務所に移してあつた。

これより先伊波普猷氏は焼失したと称するは詐であつて必ず久米村中の舊家に保管しあるべしと書かれてゐたが、右の事を聞知するや、昭和七年十二月時の図書館長故真境名安興氏は如何にかして図書館に之を移して廣く研究に資し度いと希望され鳥袋にその尽力方を依頼された。

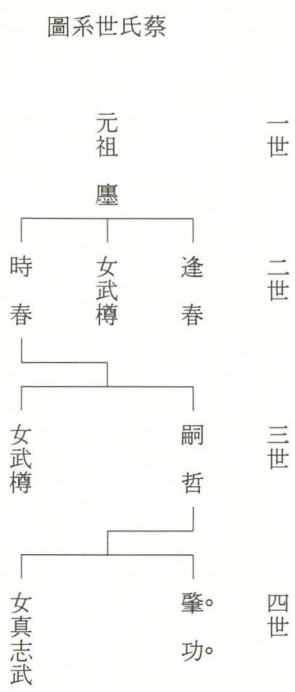
昭和八年の春、鳥袋は天尊廟内事務所に久米村の幹部名嘉山大昌伊佐川開栄故伊佐川世瑞等諸氏の集合せる席を訪ひ、右移管方並にそれに先立ち、外遊前の東恩納寛惇氏の閲読方を懇請する所ありしに、移管は更めて桑江章矩翁などの元老達の集合を乞ひて協議の上決す可し、閲読は差支なかるべしとの事であつた。仲本英昭国場公憲国吉有慶等の諸氏は中に在りて移管即決を唱へたれど一應正式に協議す可しとの事になつた。

今年十一月十二日天尊廟に於ける久米村長老会議の結果正式に図書館に保管を委嘱する事を左の条件附で決定した。

- 一、委託者ノ請求ニ依リ何時ニテモ返還スルコト
- 一、原本ハ嚴重ニ保管シ別ニ写本ヲ作製シテ一般研究者ニ閲覽センムルコト

今十四日右に関する契約書を交換し、翌十五日搬入した。
眞境名館長は病床にありてこの報に接した。
(全氏は今年十二月二十九日逝去。)

(1) 蔡肇功 古謝親雲上 (督抄官)



四世通事肇功

新垣親雲上童名思五郎號紹齋順治十三年丙申七月十一日未時生乾隆二

年丁巳八月十九日卒壽八十二葬於畠中之墓

父諱嗣哲

母蔡氏

室岑氏真滿金康熙五年丙午十二月初三日生同三十九年庚辰三月初一日

日卒享年三十五葬於畠中之墓

長男用弼 二男用章 三男用秀 四男用佐

女武樽康熙十五年丙辰十二月十四日生母鐘氏

官 爵

康熙九年庚戌六月十五日為若秀才

同 年十二月二十二日舉秀才

同十三年甲寅十月二十五日陞通事

同二十四年乙丑正月十一日頂戴黃冠

同三十二年癸酉三月初一日奉命陞暹達理位

同 年十二月初一日奉命陞座敷

同三十六年丁丑十二月初三日奉命陞中議大夫

同四十二年癸未二月初一日奉命陞正議大夫

同四十五年丙戌六月十九日奉命陞申口座

同六十年辛丑正月初九日奉命陞紫金大夫

助 庸

康熙十一年壬子十月十五日為進貢事奉命為總管隨耳目官吳美德（今以向

為姓）名嘉真親雲上朝衆正議大夫蔡彬喜友名親雲上翌年三月初三日開

洋到馬齒山至十九日赴閩於甲寅年三月閩省耿王變亂因此入覲官員阻帶

絕無消息如在閩待之則兩船員役殆遭其難故不得已至六月兩船先發歸國

復命矣

康熙十七年戊午六月初六日為學曆法事奉王命從於進貢使耳目官陸承恩

（今改姓名為向嗣孝）前川親雲上朝年正議大夫王明佐國場親雲上等於

十一月初十日開洋到馬齒山在彼候風至十八日開洋舟行半洋陡遭颶風飄

至古米山地方灣泊候風至于次年正月二十六日在彼方始開駕至二月初五

日到閩於此從薛一白而學曆法既此亦有年矣於曆法揣摩精傳至於康熙壬

戌六月初三日方得回國是以掌曆法而造大清時憲曆頒行國中此用大清時

憲曆今於是乎始也勳職六年以授古波倉通事親雲上楊聯桂也

康熙二十九年庚午二月十三日奉使為進貢存留通事隨耳目官溫允傑森山親

雲上紹基正議大夫金元達南風原親雲上等於十一月十七日開洋到馬齒山

灣泊於二十八日開洋至於十二月初五日到閩辛未年兩船歸國之後詎於七

月初四日遭颶風作暴館駟兩邊樓屋併兩門被風倒塌又有四圍砌牆崩圮但

僅存者此官廳一座然風雨之夕不堪滴漏之患況思入覲官員不時京回兼有

接貢員役繼至則樓為無地故不得已備陳下情具呈屢請兩院於是乎兩院躡

柔遠之意憐奉公之臣隨即令閩臬五虎司中仍使起蓋館駟且築土牆而觀其

制造弘厥煥焉猶勝於旧規也茲仍存留蒙欽賞綵緞一表裏青藍布四疋跟伴

五名每名青藍布四疋至於壬申年公務既竣六月三日歸國復命

康熙三十二年癸酉三月初一日奉王命任長史司勳職三年後以病辭之

同 三十五年丙午（丙子カ）二月初一日奉王命為小船都通事隨耳目官毛

天相池城親雲上安倚正議大夫鄭弘良大嶺親雲上等官於本年十一月二十

二日自本國開洋至本月二十九日到閩地而至翌年公務已竣五月二十八日

歸國復命矣

同 三十七年戊寅十一月二十九日奉王命再任長史司勳職三年

同 四十三年甲申二月初一日為進貢事奉使為正議大夫同耳目官溫開榮森

山親雲上紹長於本年十一月二十四日那霸開船到馬齒山候風二十七日自

(2) 紫金大夫蔡鐸 (久米村總役)

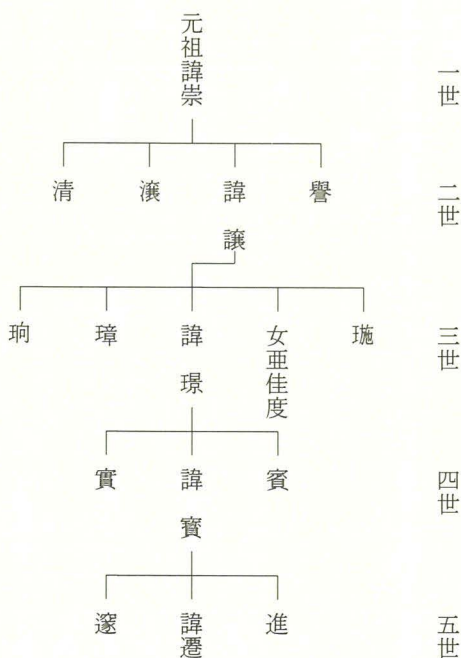
彼處開駕又到久米山候風於二十九日解纜開洋越至十二月初三日方到閩地越至康熙四十四年乙酉七月初一日齋捧表文併貢物等件赴京至十月初七日到京比時蒙欽賞大綵緞四疋表裏羅三疋絹一疋從人九名賞賜毛青布各四疋嗣後於禮部衙門賜宴二次於十一月十五日幸有觀朝之禮隨因公務既竣翌十六日捧勅書欽賞等物出京越至康熙四十五年丙戌二月初七日到福建暨福建事務已竣於六月十三日開洋至十八日歸國復命矣

康熙四十五年丙戌六月十九日奉命為進貢遵例事務已竣以轉告事例該應遣耳目官今奈耳目官溫開榮森山親雲上紹長沈沾眼病不能往以故吾重承皇華之命此乃□氈未暖王事靡盬風訊時發行李急裝於本月二十九日那霸開船赴薩府公務已竣至於十一月初九日方到本國復命矣

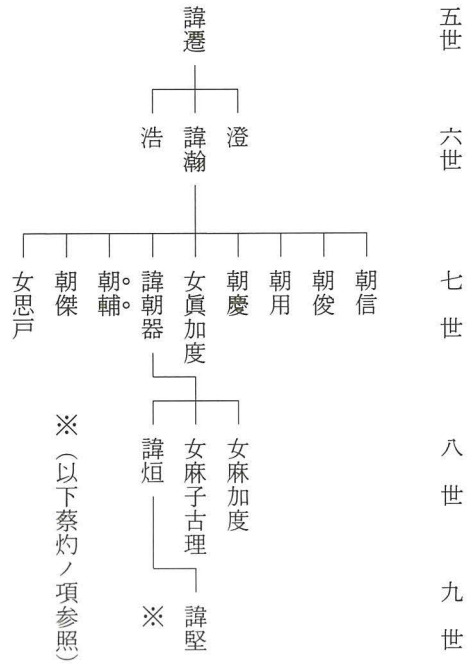
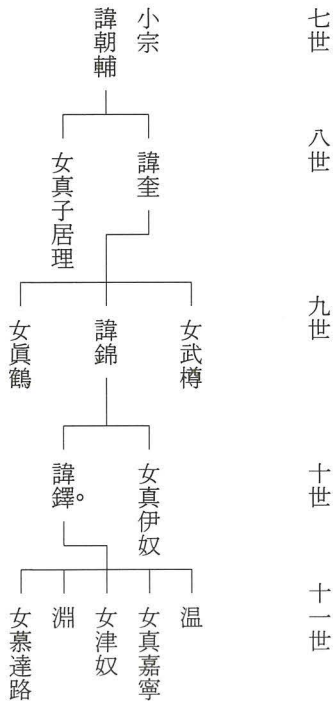
康熙五十八年己亥協理府總理司紫金大夫程順則古波藏親方為謝恩事奉使赴京時紫金大夫玩維新儀保親方署任其職嗣後因病辭職因是康熙六十年辛丑正月初九日奉命陞紫金大夫兼署任總理司至本年六月十一日原任紫金大夫程順則古波藏親方回國復命乃還其職焉勤職半年

雍正九年辛亥九月十七日告老致仕

蔡氏世系總圖



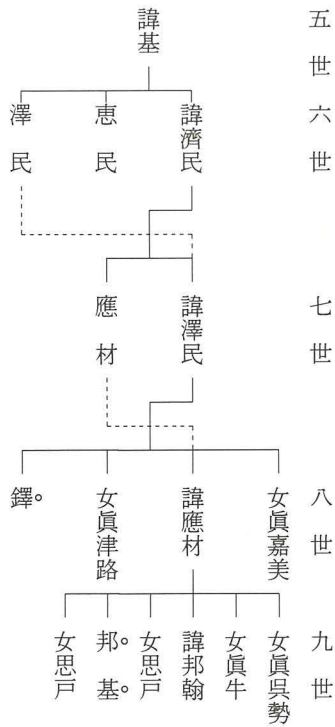
蔡氏世系圖



吳江梁氏世系總圖



七世長史諱澤民ノ項ニ曰ク
男鐸童名真德號明警順治元年甲申十二月八日生過房正議大夫蔡錦稻親
雲上為繼子



蔡氏家譜

紀 錄 (抄)

十世諱鐸紫金大夫加陞法司品銜

志多伯親方童名思德字天將號聲亭原是長史梁澤民首里金城親雲上第二

子也生母是真和志間切上間村田場阿座名女真吳瑞也鐸八歲時因錦無嗣

子入承宗桃順治元年甲申十二月初八日寅時生雍正二年甲申十二月十六

日戌時卒于正寢享年八十一葬於南京墓

父諱錦

母真吳瑞

室葉氏真吳勢 (略)

長子淵

次子温

長女思津奴 (割註略)

(以下略)

官 爵

順治十年癸巳為子和部

順治十五年戊戌十二月初九日舉秀才

順治十七年庚子四月二十三日結欵髻

康熙二年癸卯七月二十八日陞通事

康熙六年丁未十二月初八日頂戴黃冠

康熙十一年壬子十月初十日擢座敷

康熙十三年甲寅十一月廿四日陞大夫

康熙二十七年戊辰正月初九日陞正議大夫

康熙三十年辛未十二月初五日擢申口座

康熙三十一年壬申正月二十七日擢申口座指次座

康熙三十二年癸酉十二月初二日頂戴紫冠

康熙五十一年壬辰二月十八日陞法司座

助 庸

康熙五年丙午春請王命隨都通事孫自昌棚原通事親雲上赴閩讀書夏以疾歸

國

康熙六年丁未為漢字筆者

康熙十一年壬子十月初十日拜授長史司 (隨職俸祿高貳拾斛動職三年) 料

理 □ 建聖廟事

康熙十三年 (十二年九) 癸丑具奉乞中島大石及燒灰州屬唐采嘗聞三十六

姓經營唐采以大街比龍形以南門比龍頭以大石比龍珠誠所源於風水之理

者大也是年那霸官請建村於大石之四圍焉於茲恐將廢唐采之風水故具奏

上達加原屬唐采者也

康熙十六年丁巳二月奉國命修正歷代寶案書至于戊午四月告成

康熙十七年戊午八月二十五日再授長史司 (隨職俸祿高貳拾石動職四年)

康熙二十年辛酉二月初三日為進貢事奉使為存留通事次年十一月初六日隨

耳目官毛文祥小祿親雲上盛聖正議大夫蔡國器高良親雲上那霸開洋赴閩

公事已竣二十三年甲子六月十日歸國

康熙二十三年甲子十一月十三日又授長史司 (隨職俸祿高貳拾石動職四年)

康熙二十四年乙丑大修聖廟新之建廟始制奉聖像於中間而四賢侍立於其左

右而無隔板故恐四賢不安於近聖像焉乃別設座於廟內東西兩傍以奉四賢

也是制始於矣

康熙二十七年戊辰三月十二日為進貢事奉使為正議大夫一月 (十一月九)

同耳目官毛起龍福地親雲上盛命赴閩次年五月福州起身九月初二日到京

次日上進貢并請免稅加人數表章（中略）於茲鐸等曰茲蒙皇上鴻恩允國王所請之事且換賜內庫所貯好綢緞此等恩典誠與天地齊矣予等歸國以聞不但國王感切拳國臣民亦自歡呼起舞矣十一日赴禮部領換賜綢緞十三日領勅書十五日京師起身次年庚午二月初一日到福州五月二十二日五虎門開洋六月初八日歸國

（全年王世孫諱益缺唇治療ノ項略之）

康熙三十一年壬申正月二十七日授總理唐采司

（中略）

康熙三十六年丁丑四月三十日奉命以漢文纂修國譜自五月十一日起至四十年辛巳九月二十七日全竣恭備上覽時奉命作國譜序文

康熙四十六年丁亥四月初二日奉命以漢文纂修王子尚恭公尚文公兩位譜紀自十月十七日起至本年十一月二十一日全成恭備上覽時奉命作譜紀（紀カ）序

康熙五十年辛卯之冬重修國殿既告成時奉命作其棟記

康熙五十二年癸巳十月初三日告老致仕時年七十歲在任凡二十二年

采地

康熙十一年壬子閏七月十二日拜授南風原間切中井間地頭職

康熙十四年乙卯二月初三日轉授東風平間切志多伯地頭職

俸祿

順治八年辛卯十月初三日因繼家統恩賜知行高拾陸石

康熙八年己酉八月十九日加賜知行高九石

康熙三十一年壬申正月二十七日加賜知行高貳拾五石

康熙三十三年甲戌八月十八日加賜知行高參拾石

寵采

（略）

婚嫁

（略）

（3）正議大夫鄭宗德 宮城親雲上（督抄官）

鄭氏家譜序

人之有祖猶木之有本水之有源也故觀水者必窮其源樹木者必探其本合族修譜者必溯祖宗所自必誌事業所創其理一也本源不立族譜奚以作哉我始祖諱肇祚及夫人張氏本為閩之巨族於明嘉靖年間鶴屋將監入閩時被獲而到豐後至于嘉靖年間始遷中山入唐采從此子孫蕃衍而迄今也按洪永間

國王奏請中國人三十六姓住居唐采以備

貢使洎乎歷年久遠其子孫凋謝通漢語者蓋不多也以故

國王召我祖肇祚入唐采以供貢使之選時夫人亦隨祖而至矣是則我鄭家入唐采之故也若有當日家譜之作閩祖之由來亦可詳然中山往往不設譜牒之文故不能考之今有

王命立譜司正家譜爰錄我祖所自事業所創以備考核且使知後之子孫不忘

水源木本之思云

康熙二十九年庚午孟秋愚孫宗德謹識

一世 二世 三世 四世 五世

鄭氏正統總圖

元祖諱肇祚
 諱藩猷
 諱仲德

女真玉
 女武樽
 女思戶

女真牛
 女思戶
 諱宗德

世顯
 能隆

女思戶
 士縉
 士紳(別有家譜)
 士縉
 士縉
 女真牛
 士縉
 女津路
 士縉(別有家譜)
 女加路美
 士縉
 士縉
 女真牛

母真古世

室習氏崇禎十年丁丑三月十八日辰時生雍正五年丁未閏三月初十日卒享年

九十一葬于南濱墓

長男士縉 次男士經 三男士綯 四男士經 五男士紳 六男士縉

七男士縉 八男士紳

長男(女カ)真牛康熙三年甲辰六月初七日亥時生(以下略)

官 爵

順治十二年乙未正月十九日為子和部

順治十四年丁酉十一月結欵髻舉秀才

康熙二年癸卯七月二十二日擢筑登之座數陞通事

康熙六年丁未二月初六日頂戴黃冠

康熙十年辛亥十二月二十二日擢勢頭座數

康熙十四年乙卯五月二十三日擢于座數

康熙十九年庚申八月二十三日陞中議大夫

康熙三十五年丙子十二月初三日陞正議大夫

康熙四十八年己丑十一月十六日陞申口座

助 庸

康熙二年癸卯七月二十二日為謝恩事奉使為王舅通事隨王舅吳國用(改姓

為向)北谷親方朝暢赴閩次年三月二十七日福建起身七月初五日到京初

六日上表十三日納貢物十五日見朝此時賜茶八月初八日赴午門領欵賜國

王綉緞二十疋並賜己身青藍緞一疋素綢一疋青藍布四端此日賜下馬宴十

三日賜上馬宴十四日領勅書十五日京師起身十一月二十五日到閩四年乙

巳六月歸國

康熙七年戊申二月十五日為進貢事奉使為都通事三月十八日隨耳目官吳文

四世諱宗德正議大夫與儀親雲上

童名三良號懷溪原是都通事毛世顯與間通事親雲上長子也因能隆不幸早

世入承宗祧生母是吳氏比嘉子政吉女思戶號堅修也宗德崇禎十四年辛巳

十二月二十日寅時生康熙五十一年壬辰十一月二十日不祿享年七十二葬

于南濱墓

父仲德

顯我那霸親雲上宗信正議大夫王明佐比嘉親雲上那霸開船四月初十日到

福建十月初八日福建起身赴京八年己酉正月二十四日到京二十五日上表

二月初三日納貢物十六日賜下馬宴二十一日赴午門領欽賜國王綢緞二十

疋並賜己身青藍緞一疋素綢一疋青藍布四端此日賜上馬宴二十七日領勅

書二十八日京都起身五月二十九日到閩九年庚戌四月十四日歸國

康熙十一年壬子十一月與金正華赤嶺親雲上為督修聖廟奉行自十二年癸丑

十二月起工至十三年甲寅十一月竣其工按中山自明初通中國雖知尊聖人

重文教然而未曾行釋奠禮至于萬曆三十八年庚戌故總理唐榮司紫金大夫

蔡堅奉使入貢登

孔子廟見車服禮器而心向往之於是圖聖像以帛每當春秋二仲上丁之期約唐

榮士大夫輪流家而祀之然未遑立廟至于康熙十年辛亥總理唐榮司紫金大

夫金正春始以立廟請國王于是允其請卜地泉崎橋頭鼎建聖廟中山之有文

廟者於是乎始矣

康熙十四年乙卯五月二十三日拜授長史司（役知高式拾斛動職六年）

康熙二十二年癸亥六月二十六日天使臨中山因此為大臺所主取役

康熙二十三年甲子六月署長史事至八月交代

康熙二十七年戊辰五月十六日署長史事至九月交代

歷代寶案藏于天妃宮其來久矣然歷世已久而不能無廢夷之患今

國相尚弘才法司向世俊毛克盛毛見龍心甚憂之隨令紫金大夫蔡鐸長史蔡應

祥鄭士綸重脩舊案抄成式部老部四十九本老部上于

王城老部藏于天妃宮自康熙三十六年丁丑四月四日起至十一月三十日告竣

督抄官

正議大夫 鄭宗德

中議大夫 鄭明良

梁邦基

蔡肇功

考訂官

都通事 蔡灼

通事 毛文哲

阮維德

金溥

程順性

封阡

（畧）

采地

康熙十年辛亥正月十七日拜授南風原間切宮城地頭職

康熙五十一年壬辰六月十七日轉拜授美里間切與儀地頭職

俸祿

康熙十七年戊午十月初八日因繼家統恩賜知行高拾式斛

寵榮

（畧）

婚嫁

長男士綸娶蔡氏渡久地親雲上政包女真那武樽

（以下畧）

(4) 長史鄭士綸(久米村長史)

五世通事士綸

宮城通事親雲上童名滿及號克叙行一順治十八年辛丑七月十四日生康熙

四十一年壬午六月十五日不祿享年四十三

父宗德

母習氏

室蔡氏康熙二年癸卯十一月二十八日卯時生乾隆十六年辛未十月初四日卒

享年八十九葬于南濱墓

男國傑(以下略)

官爵

康熙八年己酉二月二十四日為若秀才(賜年俸米伍斗)

康熙十四年乙卯八月十五日結歛髻學秀才(賜年俸米一石五斗)

康熙二十四年乙丑十二月初五日陞通事(賜年俸米二石)

康熙二十五年丙寅二月初九日頂戴黃卷(賜年俸米二石五斗)

康熙三十一年壬申九月二十三日陞都通事(賜年俸米二石五斗雜石一石五

斗)

康熙三十三年甲戌六月二十三日擢于座敷

助庸

康熙二十一年壬戌請王命隨存留通事蔡鐸志多伯親雲上赴閩讀書四年二十

四年乙丑七月初十日帰国

康熙二十四年乙丑九月為訓詁師(勤職六個月)

康熙二十五年丙寅二月初五日奉使為進貢存留通事十一月十三日隨耳目官

魏應伯越來親雲上朝盛正議大夫曾益砂邊親雲上那霸開船到馬齒山候風

十七日開洋舟行不遠忽見天色濛々風浪大起此時不得返棹于馬齒山又難到古米山莫往莫來但汎々於洋中十八日黎明過古米山之南風浪益大天昏

地黑正危殆之際忽有一陣〔陣力〕狂風來颯倒大桅因此舟員役驚慌無地

把布席假造篷帆隨風漂蕩上下員役號天呼地性命之存亡正懸于頃刻之間

幸哀声聞於玄穹痛哭感于上帝風浪漸靜十九日漂到麻古山得全性命次年

丁卯遣使山中取桅幹召木匠來修船栽桅將直駕于閩省無奈時候已過又無

人熟路故四月二十四日開洋五月初四日仍帰那霸候汛於九月十四日開船

十月初一日到福建康熙二十七年戊辰五月十二日渡名喜人三名漂至浙江

温州府永嘉縣因此彼府官行文到閩省召存留故于八月十八日奉布政司張

令票于二十一日同通事馮濬新福建省起身九月十九日至温州地方領三人于

九月二十日温州起身十月二十一日到福建二十八年正月二十七日領欽賜

青藍緞一疋素綢一疋青藍布四端跟伴四名各賜青布四端五月二十日帰國

康熙二十九年庚午為講解師

康熙三十一年壬申二月初一日為進貢事奉使為都通事十一月二十日隨耳目

官馬廷器田場親雲上良象正議大夫王可法國場親雲上那霸開洋在馬齒山

候風十二月初三日自馬齒山開洋初十日到閩兩船公事已竣次年六月初四

日使兩舟帰国赴京使初六日福州起身九月初一日到京初三日

上表章同二十四日納貢物十月初一日領欽賜國王蟒緞紗羅共五十疋並賜己

身青藍緞一疋素綢一疋青藍布四端跟伴每名青布四端嗣後在礼部衙門領

下馬上馬兩次宴初二日領

勅書初三日京師起身十二月二十四日回閩次年閏五月二十九日帰國

康熙三十三年甲戌六月二十三日拜授長史司(役知高式拾斛勤職四年)

康熙三十八年己卯正月卅日為接貢事奉使為在船都通事同使者毛文傑添石

親雲上安好赴閩次年五月二十七日帰國

康熙四十年辛巳三月二十四日奉使為護送飄風難商在船都通事四月十二日

坐檣船一隻官伴水梢共三十五人員名帶難商船戶陳明得等二十五人在牧

港開船二十一日到閩事全竣翌年六月初一日福州開洋不意在中洋逢颶風

初六日飄到蘇州府崇明縣七十里外破船幸遇漁舟送崇明縣十三日自縣送

蘇州府給糧七月十二日自蘇州送福建八月十五日到福州柔遠驛四十一年

壬午夏塔坐接貢船隨正議大夫鄭職良池宮城親雲上六月十二日五虎門開

船又遇颶風十五日破船没于海中

采地

康熙三十六年丁丑正月初七日拜授小祿間切赤峯地頭職

寵榮

(略)

婚嫁

(略)

七世通事順性

古波藏通事親雲上童名思德字素文行二康熙九年庚戌八月初六日亥時生

父諱泰祚

母鐘氏

室鳳氏真牛金康熙十五年丙辰十一月十五日丑時生康熙三十六年丁丑正月

二十一日戌時不祿號梅室享年二十二

繼室俞氏真玉一目

官爵

康熙二十一年壬戌五月初七日初為若秀才(賜年俸米伍斗)

康熙二十五年丙寅二月二十一日舉秀才加元服(年俸米壹石)

康熙三十五年丙子十二月初三日陞通事頂戴黃冠(年俸米貳石五斗)

勲庸

康熙三十年辛未十一月初二日為勤學隨接貢都通事鄭明良湊川親雲上那霸

開船赴閩乙亥年隨耳目官翁敬德佐久真親雲上忠祐遊京丙子年六月十七

日帰国

康熙三十六年丁丑三月奉憲令為考訂歷代宝案自四月初四日起至十一月三

十日告竣(附錄)歷代宝案者琉球自通中國以來往復文書則詔勅表奏咨

及執照符文之類也藏之于天妃宮其由来久矣今歷年殆三百而不能無廢缺

之患故以

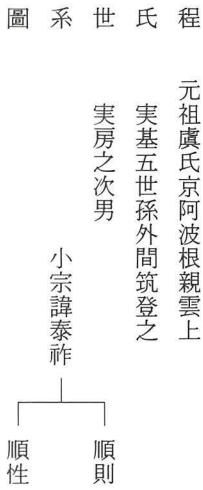
國相尚弘才三法司向世俊毛克盛毛見龍心甚憂之爰令紫金大夫蔡鐸長史

蔡應祥鄭士綸等纂修旧案抄成二部每部釘四十九冊一部上貯于王府一部

仍藏之天妃宮真我(中山之宝案也)

康熙三十七年戊寅二月二十日為講解師至庚辰(年)二月初三日交代(隨

職俸米貳石五斗)



康熙三十九年庚辰二月初三日奉使為進貢存留通事隨耳目官毛得範伊野波親雲上盛忠正議大夫鄭職良池宮城親雲上十一月初十日開船赴閩翌年蒙欽賜大綵緞老疋藍綢老疋青標布肆端跟伴每名標布肆端公事已竣壬午年六月十二日五虎出船在洋中遭大風十五日早晨覆舟而沒只有水梢二名坐三板飄到蘇州外象山縣送於福州次癸未年七月水梢婦國知其詳

寵米

(略)

(6) 長史蔡應祥 (久米村長史)

七世 八世 九世 十世 十一世

蔡

始祖諱崇六世孫

氏 諱澣第三子

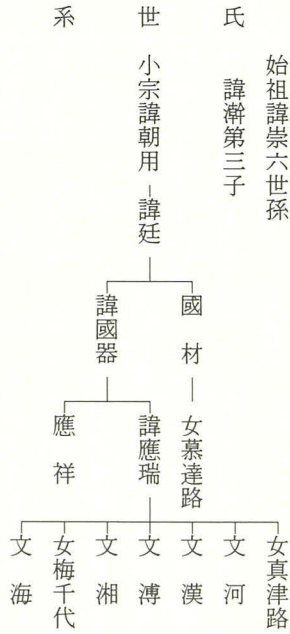


圖 (蔡鐸ノ項參照)

十世諱應祥大田親雲上

童名龜壽字雲臣號景亭行二順治九年壬辰十一月十五日寅時生康熙五十

一年壬辰三月二十四日亥時卒享年六十一歲官終於正議大夫二十六日葬於南京墓傳家長孫元龍

父國器

母蔡氏慕達路

室梁氏真與勢諱威心字妙光順治十年癸巳二月十日生雍正六年戊申十一月

初三日戌時卒享年七十六歲次日葬南京墓

長男瀛

二男泓

三男童名百歲諱曆康熙十六年丁巳三月十四日午時生二十五年丙寅年十歲

出為正議大夫曾夔砂邊親雲上義子

四男績

官 爵

康熙元年壬寅十二月二十八日歲十一歲為子和部

康熙五年丙午四月二十三日年十五歲作秀才

康熙五年七月初八日元服

康熙八年己酉十月十八日年十八歲為筑登之座敷

康熙九年庚戌十二月二十二日年十九歲陞通事

康熙十五年丙辰五月十五日年二十五歲頂戴黃冠

康熙二十八年己巳十一月初一日年三十八歲為退達理位

康熙三十年辛未十二月初一日年四十歲為座敷

康熙三十一年壬申十二月初一日年四十一歲陞中議大夫

康熙四十一年壬午二月初一日年五十一歲陞正議大夫

康熙四十四年乙酉十二月初一日年五十四歲為申口座

助庸

康熙十七年戊午三月十一日年二十七歲為訓誥師

康熙十九年庚申八月十一日年二十九歲為漢字筆者

康熙二十二年癸亥閏六月初七日年三十二歲奉使為謝恩存留通事十一月二

十四日隨王舅毛國珍池城親方安憲紫金大夫王明佐國場親方同天使船一

齊那霸港開洋十二月初五日到五虎門俟天使至而三個船一直到新港下船

安插柔遠驛次年球船歸國王舅等官赴京後聞人五六人到各衙門用銀謀為

館夫應祥聞之思館夫多則大不便故投呈於督撫兩院與布政司衙門懇乞不

許額外投充於是准其呈立鉄案杜饋及毛國珍回閩應祥以聞前事於是國珍

吩咐新存留蔡炳喜友名親雲上載其呈于存留案是時蒙欽賜緞子老疋白綢

老疋青布肆端二十四年六月二十二日五虎門開洋七月初一日飄至太平山

初五日彼地開船初十日入那霸港

康熙二十四年乙丑八月二十九日年三十四歲再為漢字筆者

康熙二十五年丙寅二月初五日年三十五歲奉使為進貢赴京都通(都通事力)

十一月十四日隨耳目官向應伯(本姓魏氏)越來親雲上朝盛正議大夫曾

夔砂邊親雲上帶官生梁成楫等那霸開洋到馬齒山候風十七日彼地開洋舟

行未遠忽見天色濛々風浪大起此時不得返棹于馬齒山又難到古米山進退

兩難次十八日辰時在古米山之南風浪益大天昏地黑正危岌之際忽有一陳

〔陣力〕狂風颯倒大桅打死官生鄭秉均因此舟中員役驚慌無地把布席假

造篷帆隨風漂蕩上下員役號天呼地性命之存亡正懸於頃刻之間幸哀聲聞

於玄穹痛哭感于上帝風浪漸靜十九日飄至麻古山得全性命次年丁卯遣使

中山取桅幹召木匠來修船裁桅將直駕于閩時風迅已過故本年四月二十四

日彼地開洋五月初四日入那霸港候迅至九月十四日再開船十月初一日到

福州次年五月二十五日福州啓行九月十七日到京次日上表二十四日納貢

物十月初四日領欽賜國王及貢使各色綢緞如例初五日賜下馬宴初六日賜

上馬宴十三日京師起身正月初九日到浦城縣十三日黎明密帶宰領泊村比

嘉筑登之親雲上久米村崎山筑登之二人至鉄場地方黃柏山(黃柏山在浦

城縣西南九十里)使彼二人學毛邊紙法十七日彼地起身至延平府纔

趕着耳目官大夫船二十二日到福州五月二十日歸國

康熙二十八年己巳十一月初一日年三十八歲拜授長史司(隨職俸祿高二十

斛在任凡四年)

康熙三十年辛未閏七月二十九日奉命率領吳氏川上筑登之先請督雕御筆匾

額(此額是康熙二十二年冊封時所賜中山世土之匾額也先是造牌榜而字

寫紙上貼之故今壽之于板)自本年十月二十日起工至次年五月間告成

康熙三十五年丙子九月二十八日年四十五歲再授長史司蒙賜役知高二十石

併中議大夫本俸五石前此為長史者因賜役知而不給本俸今賜本俸併役知

者自此始也

康熙四十一年壬午二月初一日年五十一歲奉使為進貢正議大夫十一月十四

日同耳目官毛興龍古波津親雲上安之在那霸開洋本月二十四日到福州次

年六月初九日福州起身九月初七日到京次日上表十月初一日納貢物初六

日領

勅書併欽賜國王及耳目官等件各色綢緞布疋如例本日賜下馬宴上馬宴於禮

部衙門十一月十一日在京起身正月十三日到福州七月初十日五虎門開船

本月二十日歸國

采地

康熙二十九年庚午八月初五日年三十九歲拜授具志川間切大田地頭

職

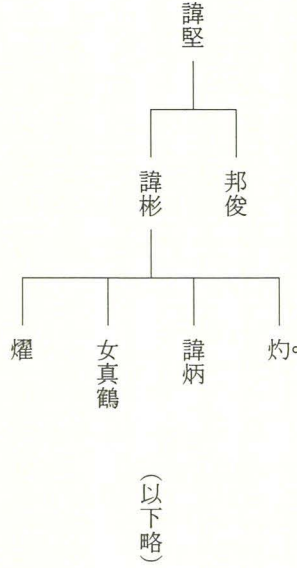
寵米

婚嫁

(共ニ略ス)

(7) 都通事蔡灼 喜友名通事親雲上 (考訂官)

九世 十世 十一世



長男培

官 爵

康熙十二年癸丑六月十三日始為若秀才 (賜年俸米五斗)

(康熙十五年丙辰九月初二日結欵髻拳秀才 (賜年俸米老石五斗))

康熙二十一年壬戌六月二十三日陞通事 (賜年俸米二石)

康熙二十六年丁卯十二月初三日頂戴黃冠 (賜年俸米二石五斗)

康熙三十四年乙亥二月三日擢邊達理座

康熙三十四年乙亥九月二十日陞都通事 (賜年俸米二石五斗雜石一石五斗)

康熙三十八年己卯四月十日擢座敷

康熙四十六年丁亥十二月初三日陞中議大夫 (賜年俸米三石雜石二石)

康熙四十八年己丑九月初四日陞正議大夫 (賜年俸米三石五斗雜石二石五斗)

康熙五十年辛卯十月二十日陞申口座

助庸

康熙十七年戊午題請附存留通事蔡應瑞高良通事親雲上赴闕誦書

國王准其請十一月初十日那霸開船到古米山候風次年正月二十六日於彼地

開船二月初二日到福州誦書四年至於二十一年壬戌六月初三日帰國

康熙二十一年壬戌六月二十三日奉旨為句誦訓詁師 (賜年俸米二石勤職四年)

康熙二十五年丙寅九月十五日再為句誦訓詁師 (賜年俸米二石勤職二年)

康熙二十七年戊辰三月十二日奉使為進貢存留通事十一月十七日隨耳目官

毛起龍福地親雲上盛命正議大夫蔡鐸志多伯親雲上那霸開船十二月初十

日到福州留在三年蒙

欽賜青雙經大緞壹疋青藍素綢壹疋藍標布四疋跟伴四名各賜藍標布四疋公

十一世灼 (官為正議大夫稱福地親雲上)

童名平藏字子華號洛亭行二生於康熙元年壬寅七月二十四日丑時康熙五

十二年癸巳五月二十三日在福州染病卒于柔遠驛享年五十二葬于南台下

渡祖山灼無生息乃以兄炳第三子培為嗣

父彬

母班氏

室金氏真加麻戶生於康熙七年戊申八月十八日子時 (諱静淑) 乾隆二 (十

二九) 年丁卯四月十五日戌時卒享年八十

事已竣至於二十九年庚午六月初八日帰国

康熙三十四年乙亥二月三日奉使為迎接

勅書欽賞并貢使事為都通事十一月初九日同使者温允俊本部親雲上紹有等
那霸開船二十三日到閩公事已竣次年六月十三日福建開洋十七日帰国二
十五日復命

康熙三十八年己卯四月十日拜授長史司（役知高二十斛）

康熙四十一年壬午二月初一日奉使為進貢都通事十一月十四日隨耳目官毛
與龍古波津親雲上安之正議大夫蔡應祥大田親雲上等那霸開洋二十四日
到福州次年六月初九日福州啓行九月七日到京八日上表十月初一日納貢
物同六日領

勅書並欽賜

國王綢緞錦羅紗共五十疋又賜己青雙絳大緞一疋素綢一疋藍標布四疋跟
伴五名各賜藍標布四疋賜下馬宴上馬宴於礼部衙門十月十一日盛京起身
正月十三日到福州七月十日福州開洋二十日帰国二十六日復命

康熙四十八年己丑九月初四日奉使為御代替之御使者十一月二十二日附搭
接貢船同都通事蔡文漢那霸開洋十二月初六日到閩投咨文布政司詳

撫督兩院具

題上達

宸鑒翌年領布政司回咨六月二十日五虎開洋二十九日帰国復命

康熙五十一年壬辰二月初七日奉使為進貢正議大夫本年十一月該應赴閩因
御銀不來俟至翌年正月御銀下來二月十二日同耳目官毛九經野里親雲上
安尊那霸開船到馬齒山候風十八日彼島開津三月十三日到福州至五月將
赴京時偶然臥病遂卒于館深蒙

皇上恩典如例欽賜大綵緞四疋綢四疋羅四疋留隨跟伴四名各賜藍標布四疋

更賜御祭其事詳見于寵榮

寵榮

康熙三十二年癸酉十一月二十七日
王世孫佐敷王子尊諱益公為薩州榮旋之儀特賜上紙壹束扇子二把
康熙三十八年己卯二月二十五日

上大喜唐榮中繁生宣臣等賜宴于南御殿

康熙四十一年壬午十月三十日將赴中華之時自

王世子尊諱純公特賜杉原一束百田紙一束水足袋一束金扇子五握入一箱烟
入一個

康熙四十二年癸未冬在閩之時自

王世孫尊諱益公遙賜銀扇子三把入一箱國分烟一十束

康熙四十三年甲申秋自

王世子特賜百田紙一束國分烟三十束細上布一疋

康熙四十八年己丑為

御代替之御使者將赴閩之時自

國王特賜源氏烟十種蠟燭三十丁鯉節三連燒酒中壺一罇
康熙五十一年壬辰十一月十五日毛氏聞得大君加那志賜贐儀御酒壹雙白蕉
布乙疋

康熙五十二年癸巳二月初十日

國王賜贐儀二沸入錫壹雙中蠟燭三十丁昆布菜乙十觔

福州府清軍海防分府加一級沈為報明貢使病故事本年中〔十九〕月十二
日蒙布政司加三級李憲牌本年十月初四日奉巡撫都察院覺羅滿憲牌康熙
五十二年十二月初一日准

戶部咨福建清吏司案呈先准福撫滿咨称琉球國進貢遣官蔡灼在福州省城

柔遠驛病故應否照例遣官致祭并于宴賞銀兩內動給棺價銀二十兩咨請部

示等因移查禮部回稱琉球國進貢正議大夫蔡灼病故經福撫滿咨報本部將

病故琉球正議大夫蔡灼照例揭送內閣撰祭文福建布政司堂上官備祭品遣

官致祭一次如欲將骸骨帶回本國聽其帶回如欲留閩令置地塋葬立石封識

等因具題奉

旨依議欽遵在案相應咨覆等因前來相應行令該撫將前項銀兩照數動給造入

奏冊具題查核可也為此咨咨前去查照施行等因到都院准此擬合就行備牌

行司備照咨文內事理即查照動給取領造具欸冊詳報咨部毋違等因蒙此擬

合就為此備牌行所備照院行咨文內事理即便查照動給取領造具欸冊詳報

咨部毋違等因蒙此合就函行為此牌仰通事鄭昂等譯諭存留葬官金震等遵

照憲行咨文內事理即便查照着例具領繳所以馮轉繳詳報施行須呈

御祭文

皇帝諭祭琉球國貢使正議大夫蔡灼之靈曰遠人效婦化之義入貢天朝國家隆

恤死之恩均施外域爾蔡灼因使入貢跋涉遠來艱勉急行間閔况瘁方期早竣

其事不意在途遽殞朕用憫焉特頒祭典以慰幽魂爾如有知尚克歆享

康熙五十二年十一月 日

皇上特賜優恤給祭葬坊價銀二十兩隆禮外臣

勅賜御祭祭文祭品着福建布政司衙門堂上官一員致祭本年十一月二十一

日福建糧驛分巡道梁君親臨柔遠驛致遵選擇吉地造墳於南臺下渡祖山立

御碑於墓前為榮復准留隨從四人駐閩三載日給糧以奉祭祀

皇恩光寵可為榮矣哉

采地

康熙四十年辛巳五月初七日拜授名護問切松堂地頭職

康熙五十一年壬辰六月十七日轉授喜屋武問切福地地頭職

閩縣林士愷所賣地之證書

(略之)

II、『那霸市史』(資料篇第一卷六家譜資料二上・下)

(8)鄭明良 湊川親雲上(督抄官)

十二世正議大夫明良

仲井眞親雲上童名武達志號品麿橋行二順治五年戊子九月初七日生

康熙五十六年丁酉十月二十六日午時卒享年七十

父諱宗善

母明氏

室陶氏順治十六年己亥二月初七日生雍正三年乙巳三月十四日酉時卒

享年六十七號蘭秀妙香

長男國棟 次男國柱安次嶺通事親雲上童名三良康熙二十七年戊辰

八月二十八日生都通事繼善安次嶺通事親雲上因無子爲嗣子

三男國楨 別有家譜

長女眞鶴康熙十一年壬子八月十一日生母杜氏

次女眞志普康熙十四年乙卯六月初八日生母杜氏

三女眞宇志康熙三十四年乙亥正月二十一日午時生

官 爵

順治十六年己亥正月二十二日初爲子和部

順治十八年辛丑十一月初五日擢秀才

康熙四年乙巳八月二十四日結欵髻

康熙七年戊申十二月二十二日陞通事

康熙十年辛亥二月二十五日頂戴黃冠

康熙二十六年丁卯十二月初三日陞都通事

康熙二十七年戊辰正月初九日擢遠達理位

康熙三十一年壬申十月初八日擢座敷

康熙三十三年甲戌十二月初二日陞中議大夫

康熙四十一年壬午十二月初一日陞正議大夫

康熙五十一年壬辰二月十八日擢申口座

勲 庸

康熙十五年丙辰三月初三日授句讀訓詁師

康熙十五年丙辰十月二十四日爲探問並接回貢使事奉 使爲存留通事隨

正議大夫蔡國器高良親雲上翌年三月初六日開船赴閩十七年戊午貢使

耳目官前川親雲上朝年正議大夫國場親雲上王明佐到閩時傳 王命使

明良學相法束脩送禮等物皆係公出也庚申年七月十七日歸國

康熙二十年辛酉二月十七日授講解師至甲子年八月二十七日交代

康熙二十三年甲子十月初一日爲進貢事奉 使爲都通事隨耳目官吳世俊

今以尚 仲田親雲上朝重正議大夫鄭永安東恩納親雲上十二月初七日那

為姓 霸開船到馬齒山十七日再開洋十九日到古米山依無順風至明年乙丑正

月十三日開船二十三日到閩六月二十五日啓行赴京十月十五日到京十

六日上 表十一月初八日納貢物十一月十五日見朝賜茶又後於禮部衙

門賜宴二次十二月初八日領 勅書並欽賜 國王各色緞絹紗羅等貳拾

疋又加賞參拾疋共五拾疋從此每貢 欽賜伍拾疋成例又拜領

欽賞使臣如例明良雲緞壹疋素綢壹疋標布肆端伴每名標布肆端十二月初

九日出京 是時奉 愈旨蠲免 貢船往還之抽稅 丙寅三月初九日到閩其時接貢船到福建六

月公務已竣上船時猶未賜禮部接貢船摘回之明示以故不能返棹急請兩

院飛咨候部至八月十三日有部文許歸國雖然風迅已過不得歸國至丁卯年五月初六日五虎開船初十日歸國

康熙三十年辛未三月初一日為接貢事奉 使為都通事同使者雍氏伊波親

雲上興治十一月初二日開船赴閩同三十一年壬申六月初三日歸國

康熙三十一年壬申十月初八日拜授長史司甲戌年六月二十三日交代役知高貳

石拾

寵 榮

康熙三十八年己卯二月二十五日唐榮官員蒙 殊恩特召賜宴於南御殿上

壇 王親臨御書院此時紫金大夫及申口座大夫奉侍 左右賜宴

王甚喜正議大夫以下每員召出 御前賜御酒真千載奇遇曠世寵榮也

日午登席夜半下朝

康熙四十四年乙酉正月初二日從 東宮中城王子尚純公為陞位祝賜錫乙

雙

康熙四十五年丙戌十一月初一日從 東宮賜名勝十全烟艸之箱

采 地

康熙二十年辛酉三月初六日拜授眞和志間切湊川地頭職

康熙四十年辛巳七月二十日轉授眞和志間切仲井眞地頭職

婚 嫁

長女眞鶴適首里談氏武富子祐澄

次女眞志普適那霸李氏上江洲子喜正

長男國棟娶趙氏屋嘉比筑登之親雲上宗尊次女思玉

三男國楨娶廣氏神里筑登之親雲上宗普長女眞蒲戶

三女眞宇志適七男與儀通事鄭士繩

(9)梁邦基 內間親雲上(督抄官)

九世正議大夫邦基

內間親雲上童名眞蒲戶號本寧順治七年庚寅十二月初七日生康熙四

十二年癸未二月二十八日卒享年五十四葬于兼久墓傳家於鼎也

父應材

母璉氏眞那武樽法名妙董

室蔡氏眞鶴正議大夫蔡彬喜友名親雲上女順治十五年戊戌十一月初六

日寅時生雍正四年丙午八月十四日卒享年六十九葬于兼久墓

長男鼎

官 爵

順治十七年庚子八月二十四日初為子和部賜年俸米五斗

康熙二年癸卯七月二十八日舉秀才賜年俸米壹石五斗

康熙三年甲辰十一月初六日結敬髻

康熙七年戊申十二月二十七日陞通事賜年俸米二石

康熙十年辛亥十二月二十二日頂戴黃冠賜年俸米二石五斗

康熙二十九年庚午一月十九日擢座敷

康熙三十二年癸酉十二月初二日陞中議大夫

康熙三十七年戊寅二月初二日陞正議大夫

康熙四十一年壬午十二月初一日陞申口座

助 庸

康熙九年庚戌十月二十日為漢字筆者勤職十一年隨職賜年俸米二石五斗

康熙十六年丁巳十月二十四日奉 國命書金城橋碑文

康熙十八年己未八月十二日奉 國命書魚堀之碑文本月十三日書安里橋

碑文

康熙十九年庚申三月二十四日奉 使為進貢事為小船通事隨耳目官毛見龍識名親雲上安依正議大夫梁邦翰國吉親雲上等於本年十一月十五日開那霸港至本年十二月初四日到閩次年五月間公事已畢兩船摘發先回次於怡山院侯風不知何如竟無順風無奈滯留一年至於壬戌五月二十八日等貢使京回於本年六月初三日一齊回國

康熙二十四年乙丑四月初五日奉 使為接貢存番通事同使者向氏名嘉地親雲上朝記等於本年十一月二十四日在那霸開洋阻風於久米山至次年二月內得有順風即開本山至三月間纔到閩地於戊辰五月二十四日公事已妥至本月二十七日回國

康熙二十九年庚午一月十九日拜授長史司 勤職四年隨職賜俸祿高二十五

康熙三十五年丙子因長史鄭職良池宮城親雲上病疾奉 命代管長史職

康熙三十六年丁丑四月初四日因歷代入貢寶案殘缺奉 法司令同鄭宗德

宮城親雲上鄭明良港川親雲上為督抄日上天妃宮至于十一月三十日抄

成二部一部四十九本一部上於 王城一部藏於天妃宮

康熙三十七年戊寅二月初二日奉 使為進貢正議大夫同耳目官毛龍圖野

里親雲上安常本年十一月二十二日那霸開洋本月二十六日到閩次年赴

京蒙賜宴二次蒙 欽賜緞肆疋系紬肆疋羅肆疋凡公事已竣康熙三十

九年庚辰五月十七日回國

寵 榮

康熙三十一年壬申三月初八日 王世孫佐敷王子尊諱益公為御廣日事賜

宴於 中城御殿

康熙三十二年癸酉十月二十九日 王世孫尊諱益公為薩州榮旋之儀特賜

上紙一束扇子一匣

康熙三十四年乙亥十月十六日蒙 王世子中城王子尊諱純公特召同蔡鐸

志多伯親方曾夔砂邊親雲上等賜賞菊宴時拜領枚原一束色紙十張扇子

三握

康熙三十七年戊寅十一月十六日奉 使時 王世子尊諱純公為餞行恩賜

錫一雙國分烟一匣水足袋二雙皮足袋一雙烟入一個扇子五握

采 地

康熙十六年丁巳五月初一日拜授浦添間切內間地頭職

康熙五十九年庚辰八月十七日轉拜授豐見城間切饒波地頭職

婚 嫁

子鼎娶王保之國場通事親雲上長女真滿金

(10)金溥 手登根(通事力) 親雲上(考訂官)

十世通事溥

手登根通事董名真五郎字浩然康熙七年戊申六月初八日申時生大夫

阮起龍天久親雲上三男也親母那霸富氏宮平親雲上次女真那武樽于

康熙十四年乙卯守約因無子入繼宗祧卒於康熙四十七年戊子六月廿

二日享年四十一葬于當間森後墓號養齋

父守約

母真徳

室王氏 名真加戸樽康熙七年戊申正月十七日生乾隆二年丁巳十一月二十二日卒壽七十葬于當間森後墓號妙栢

長男聲 次男振 三男鑑 四男蘭 五男聘 六男聞

長女武樽 康熙四十四年乙酉五月廿五日亥時生乾隆五十四年己酉七月十九日辰時終享年八十五號芳壽

次女真滿 康熙四十六年丁亥十一月初五日亥時生雍正五年丁未十二月初三日終享年二十一號展順

官 爵

康熙十六年丁巳八月二十三日始為若秀才 賜年俸米五斗

康熙二十一年壬戌五月初七日結欵髻舉秀才 賜年俸米一石五斗

康熙二十八年己巳十二月初四日陞通事 賜年俸米二石

康熙三十二年癸酉二月初一日頂戴黃冠 賜年俸米二石五斗

康熙三十九年庚辰四月二十二日擢御座敷陸都通事 賜年俸四石內米二石五斗雜石壹石五斗

勅 庸

康熙二十三年甲子十月初九日請乞 王命為讀書習禮事隨存番通事蔡炳喜友名親雲上赴閩次二十七年戊辰隨朝京都通事蔡應祥高良通事親雲上赴京蒙

雲上赴京蒙

欽賜毛青布四端次二十八年己巳五月二十日歸國

康熙三十二年癸酉二月初一日為接貢事奉 使為存番通事同都通事毛文善我部親雲上十一月初一日那霸開船到馬齒山候風初三日開洋至初

五六日不意陡遭風雨天色昏濛不分東西烟浪又大舟不得行浮於海中往來往去至二十一日飄到廣東潮州府潮陽縣海門地方於是溥具報單帶到

各衙門報明僱覓舵工乙名雷和至十二月初八日見有順風開船由凌波一帶過洋次年甲戌二月十五日幸到閩安鎮進入內港安插驛館公事全竣其

船閩五月內回國但溥存番在館次年乙亥六月十一日回國

康熙三十六年丁丑四月初四日 國相尚弘才北谷王子法司向世俊仲田親

方毛克盛伊野波親方毛見龍嵩原親方恐歷代寶案藏于天妃宮其來久矣然歷世已久而不能無廢夷之患令紫金大夫蔡鐸志多伯親方長史司蔡應

祥大田親雲上鄭士綸赤峯親雲上重脩舊案因此為督抄官正議大夫鄭宗德宮城親雲上中議大夫鄭明良港川親雲上梁邦基內間親雲上蔡肇功古

謝親雲上考訂官都通事蔡灼喜友名通事親雲上予等每日于天妃宮選抄

至九月二十六日因為存番通事告辭

康熙三十六年丁丑九月二十六日為接貢事奉 使為存番通事同都通事

魏士哲渡具知親雲上將赴閩時有外國船隻被風飄到久米山地方閣破男女共十八名附搭帶領于十一月初九日那霸開船到久米山候風至十二

日見有順風開洋日飄到廣東潮州府潮陽縣海門地方於是溥具報單帶到各衙門報明僱覓舵工乙名雷和至十二月初八日見有順風開船由凌波一

帶過洋次年甲戌二月十五日幸到閩安鎮進入內港安插驛館公事全竣其船閩五月內回國但溥存留在館次年乙亥六月十一日回國

康熙三十六年丁丑四月初四日 國相尚弘才北谷王子法司向世俊仲田

親方毛克盛伊野波親方毛見龍嵩原親方令紫金大夫蔡鐸志多伯親方長史蔡應祥大田親雲上鄭士綸赤峯親雲上因此為督抄官正議大夫鄭宗德

宮城親雲上中議大夫鄭明良港川親雲上梁邦基內間親雲上蔡肇功古謝親雲上考訂官都通事蔡灼喜友名通事親雲上予等每日于天妃宮辦公至

九月二十六日因為存留通事告辭 康熙三十六年丁丑九月二十六日為接貢事奉 使為存番通事同都通事

魏士哲渡具知親雲上將赴閩時有外國船隻被風飄到久米山地方閣破男女共十八名附搭帶領于十一月初九日那霸開船到久米山候風至十二

日見有順風開洋十七日到閩安鎮進入內港安插驛館公事全竣其船五月內回國又飄風難民事福建永福縣巡司啟老爺帶領護送赴 京五月二十

二日起行但溥存番在館次年己卯七月初五日回國

【※以上、記事に重複部分あり、原本の通り】 康熙三十九年庚辰四月二十二日拜授長史司 勤職三年 隨職俸祿高二十石

康熙四十二年癸未二月初一日為接貢事奉 使為大通事同才府顧天休久志親雲上助辰等本年十一月十五日那霸開船到馬齒山候風二十日開洋

至久米山于二十七日在久米山開洋不擬至二十九日陡遭颶風至十二月

初五日損楫飄流至初八日到金門圍頭地方幸全蟻命於是溥具報單到金

門鎮各衙門報明僱舵工壹名至次年甲申二月十三日自圍頭地方開船三

月十七日到閩安鎮進入內港安插驛館公事全竣七月十九日回國

康熙四十五年丙戌三月初七日再拜授長史司 勳職二年 隨職俸祿高二十石

康熙三十二年癸酉奉 使為存留通事將赴閩時 王世子尊諱純公命溥學

養鷹法因而賜白銀七兩茲從閩人李爾燦精習其法三十四年乙亥歸國復

命

康熙三十六年丁丑奉 使再為存留通事將赴閩時 王世子尊諱純公命溥

學見硯石之法因而賜白銀五兩茲從閩人何彥開精習其法三十八年己卯

歸國復 命

此兩條昔日偶因遺失未嘗有記雍正二年甲辰奏乞此事始收記之

采地

康熙二十年辛酉正月初五日襲父職拜授佐敷間切加名幸村手登根地頭職

寵榮

康熙三十二年癸酉十月二十九日將赴閩時自

王世子 尊諱純公 賜 諸白壹樽 小刀乙把 國分烟六結 烟筒乙對 上紙

三束 昆布乙結

康熙三十二年癸酉十一月二十七日自

王太孫 尊諱益公 為薩州榮歸慶賜 上紙壹束 扇二把 時溥赴閩之後

康熙三十三年甲戌存留番在閩時十一月因進貢之便自

王世子 尊諱純公 寄賜 金扇三把 白麻紙二束 大鯉五連

康熙三十四年乙亥六月二十八日自閩歸國為慶事自

王世子 尊諱純公 賜 燒酒壹双 金扇三把 紋上布乙端

康熙三十六年丁丑十月十二日速然為奉 命赴閩事自

王世子 尊諱純公 賜 鷺二羽

康熙三十六年丁丑十月二十八日將赴閩時自

王世子 尊諱純公 賜 諸白壹樽 銀子五兩 國分烟二十結 (マ) 燭燭十五對

紋綿綱貳端 昆布壹結 大鯉三連

康熙三十七年戊寅存留番在閩時十二月因進貢之便自

王世子 尊諱純公 寄賜 燒酒壹壇

康熙三十八年己卯七月十八日自閩回國為慶事自

王世子 尊諱純公 賜 燒酒貳双

康熙四十二年癸未十月二十七日將赴閩時自

王世子 尊諱純公 賜 諸白壹樽 銀子八兩 球筆拾枝 昆布壹結 熟夏布

二端 扇形烟盒壹個 國分烟十五結

康熙四十三年甲申八月初五日自閩回國為慶事自

王世子 尊諱純公 賜 燒酒壹双 絲烟壹封

婚嫁

長子聲娶那霸趙增喜中村渠親雲上宗尊三女真太知

次男振娶眞壁間切眞榮平村安里親雲上女眞那武樽

三男鑑娶中議大夫梁珍材外間親雲上六女萬滿金

四男蘭娶那霸若^マ攷町村扶氏屋比久筑登之等親女眞樽後致離別

五男聘娶那霸東村方氏西銘筑登之親雲上生普長女眞龜樽

六男聞娶久米村新垣筑登之長女眞龜樽

長女武樽金適那霸牛德聰我謝子秀就

次女眞滿適那霸茄氏慶路眞筑登之知弟

(11)蔡淵 志多伯里之子(筆帖式)

十一世諱淵紫金大夫

志多伯親方童名思次良字德生號潛菴

康熙三十八年己卯二月二十五日唐榮諸官蒙特召賜宴于 王殿時淵同諸

僚友在南御殿上壇紫巾官可心親方陪宴已畢淵 深荷 殊恩宣入御

前特賜杯真千載奇遇而曠世之榮事也

(12)毛士豐 伊地通事(筆帖式)

四世都通事士豐

和宇慶里之子親雲上童名眞蒲戸字子翀文善長子也康熙十二年癸丑

正月十三日卯時生康熙四十九年庚寅四月初五日不祿享年三十八葬

于與奇之崎墓

父文善

母查氏

室察肇功湖城親方女武樽金康熙十五年丙辰十二月十四日午時生乾隆

四年己未八月二十九日卒享年六十四葬于與奇之崎墓

長男如徳 娶班氏外間筑登之親雲
上守保次女梅千代金

次男如茂 娶黎氏阿嘉親雲上宗伴
女眞蒲戸因夫卒嫁他氏

三男如苞 娶鄭國棟仲井間里之
子親雲上長女眞蒲戸

長女眞那武樽康熙四十二年癸未九月十九日未時生 適牛氏宮城筑登之
親雲上秀壽

(官爵・勲庸)

康熙二十四年乙丑八月二十三日初為若秀才

賜年俸
米五斗

康熙二十八年己巳二月十九日結欵髻擢秀才 賜年俸
米壹石

康熙三十一年壬申七月初九日請乞 王命為讀書習禮事隨在船通事毛文

哲奧間通事親雲上本年十一月二十日那霸開船赴閩留在讀書三十六年

丁丑五月二十八日歸國

康熙三十六年丁丑二月初三日為通事陞筑登之座敷 賜年俸
米二石

康熙三十八年己卯二月二十五日 主上大喜唐榮之中繁生賜宴于南御殿

時通事以上官皆賜盛宴自正議大夫以上侍
宴于御書院中議大夫以下皆賜宴于南御殿

康熙四十二年癸未十二月初一日頂戴黃冠 賜年俸
米二石五斗

康熙四十四年乙酉二月初二日為接貢事奉 使為存留通事十一月同使者

明氏奧武親雲上朝重赴閩公事全竣四十六年丁亥七月十九日歸國

康熙四十八年己丑十一月初五日為都通事陞退達理座敷

(13)陳其湘 幸喜通事(筆帖式)

三世其湘

童名八藏字楚水號全信康熙十二年癸丑十一月十五日亥時生康熙六

十一年壬寅十一月三十日卒享年五十

父初源

母頼氏思津奴

室思戸金康熙十六年丁巳四月十七日午時生康熙三十五年丙子七月三

十日終

繼室鄭氏思加路銘康熙十六年丁巳十二月十五日未時生乾隆二十五年

庚辰九月十三日亥時終壽八十四法名靜順

長男弘訓 改以箴

次男弘業

三男弘謨 改以鑑

長女眞乙奴金康熙三十七年戊寅十月二十三日午時生乾隆三十二年丁

亥十月十日死葬於成久普之墓壽七十

次女眞鶴金康熙四十年辛巳六月十日巳時生乾隆三十五年庚寅十一月

初九日卒葬於成久普之墓壽七十

三女思津奴康熙四十六年丁亥四月十四日午時生

四女眞牛康熙五十五年丙申四月初八日巳時生

官爵

康熙二十三年壬子三月初六日始為若秀才 賜年俸米五斗

康熙二十七年戊辰八月十三日結歛髻舉秀才 賜年俸米一石

康熙三十六年丁丑二月初二日陞通事 賜年俸米二石

康熙三十八年己卯十二月初一日頂戴黃冠 賜年俸米二石五斗

康熙四十四年乙酉二月初二日陞都通事擢當座 賜年俸米二石五斗

康熙四十七年戊子二月初四日擢座敷 斗雜石乙石五斗

康熙五十五年丙申二月二十五日陞中議大夫 賜年俸米三石

康熙五十七年戊戌正月二十六日陞正議大夫 雜石二石

康熙五十八年己亥八月二十八日擢申口座 雜石二石五斗

助庸

康熙三十一年壬申請乞 王命為讀書習禮事隨正議大夫王可法國場親雲

上赴閩留六年丁丑五月二十八日歸國

康熙三十八年己卯正月二十五日奉 命為教授御書院樂生以中華歌併琵琶

三絃等事同鄭士經自本年二月初一日起每日上城至翌年六月初三日

止 在任一年半

康熙四十年辛巳二月初一日奉 使為接貢船存留隨都通事梁成楫屋比久

親雲上十一月二十日那霸開船赴閩事竣癸未六月初七日在五虎門二隻

船一併開船至九日大風緊急天色暗黑不分東西南北船隻殆危係萬死一

生幸至十一日大風漸淨於洋中不知何處但隨風走東走西至數日不見山

于同月三十日飄到大島東山近遇有地方船隻前來接護引進灣泊助船

上人命等情報稱地方在番于七月朔日在番遣使并小船七八隻引進津知

港於此赴魔府船之事稟明在番小倉市良兵衛殿許承薩州之船三隻因此

頒裝貨物宰領大唐船才府毛氏與座親雲上安好筆者郭氏根波筑登之親

雲上正信小唐船才府毛氏內問親雲上安周筆者翁氏瀨底親雲上重勇七

月赴魔府照例納欸因此兩隻唐船該應歸國因阻風不得已留在彼處候至

順風于八月九日兩隻一併開洋同十一日歸國 此時小倉船六月三十日飄到大島

康熙四十三年甲申十月二十八日為讀書師匠 隨職俸米二石

康熙四十四年乙酉二月初二日奉 使為接貢都通事同才府明氏與武親雲

上長孝十一月十日那霸開船赴閩事竣次年六月十三日在五虎門開船同

十八日歸國

康熙四十七年戊子二月初四日奉 使為北京都通事隨耳目官向英福地親

雲上朝貴正議大夫毛文哲許田親雲上十二月初三日那霸開船赴閩次年

到京上表章納貢物嗣賜宴二次并頒賞其湘拜領緞子乙疋蘇網乙疋清藍

布四疋跟伴每名藍布四端公事已竣十一月十七日奉 勅出京庚寅二月

十一日回閩同年六月二十二日在五虎門開船同三十日歸國

康熙四十九年庚寅十二月二十七日拜授長史 在任五年隨職俸祿高二十石

康熙五十三年甲午二月初二日奉 使為進貢小船都通事隨耳目官馬氏與

座親雲上良格正議大夫阮璋卒宮城親雲上赴閩事竣翌年七月二十一日

歸國

康熙五十五年丙申二月二十五日再拜授長史

在任二年隨職俸祿高二十斛

康熙五十七年戊戌正月二十六日奉 命為接封正議大夫十一月十六日同

貢使耳目官向秉乾當親雲上朝齊正議大夫楊聯桂名嘉地親雲上那霸

開船到馬齒山同二十五日馬齒山開船到久米山十二月初二日久米山開

船在洋中遇逆風天色昏濛不分東西船隻殆危切斷帆樯隨風漂流于同十

日到那霸港漸救一命而得修葺帆樯正月十七日那霸開船又到久米山候

風二月十三日彼地開船三月初五日到閩其時

兩天使未到閩省三月十八日奉 督撫憲令往建寧府于同十九日到竹崎地方

恭接 正使海公尊諱寶 即隨海公歸福州公館即上咨並土儀迎接之禮已

畢于同二十日再往建寧府接候 副使徐公尊諱葆公 于同二十四日到水口

駟地方恭接徐公即隨徐公福州歸公館即上咨並土儀迎接之禮已畢于二

十五日兩測量官平公尊諱安 豐公尊諱盛額 到閩恭接於洪山橋即隨兩公歸

公館即上土儀迎接之禮已畢四月二十三日考舊例具呈上四天使具稟疏

球國接封正議大夫陳其湘等謹稟為籲 天酌裁嚴禁兵役多帶貨物事切

湘等敝國海外小邦素稱貧窶閩省周知恭逢

大老爺光臨敝國遠人老幼親親

天朝大典歡懽無窮茲有懇者

冊封寶船貳隻跟隨員役兵丁等鈞定名數前往辦事向列准許每名隨帶衣装乙

百舫歷封皆然康熙二十二年癸亥接封大夫鄭永安到閩迎接具稟

汪林 二位大老爺嚴禁多帶尚買不盡仍帶回者多倘此番隨封員役兵丁等以為

過洋重利受人寄托多帶貨物則敝國力不能買致

大老爺煩憂若不稟明恐湘受罪難免伏乞

大老爺鈞諭員役兵丁等只許照例每名隨帶乙百舫不許受人寄托多帶貨物庶

到敝國之日不至煩費

大老爺天心感戴洪慈與

皇恩並垂不朽矣臨稟不勝戰慄待命之至

四位大老爺對面曰

朝廷奉命臨中山自恃清風豈容隨封員役等多帶貨物過洋有失

朝廷柔遠之體即行嚴五月二十二日坐寶船同回貢一齊開船六月一日歸國復

命

同年八月奉 命同毛氏內間親方安周在于唐榮周家為掌管隨封員役貨物

評價事十一月之間事竣又奉 命為掌管供應所事自十一月翌年二月十

六日因 寶船開洋公務全竣

康熙六十年辛丑二月十二日江南松江府上海縣商人計永吉等海船乙隻飄

流到運天 因此十四日奉

旨同柁山仲右衛門殿鎌田早右衛門殿御鎖之側毛氏安室親雲上盛富御物

奉行翁氏宜野座親雲上盛傳日帳主取毛氏具志頭親雲上安代通事阮為

標天久通事親雲上至其港查明船內給與糧蔬塩薪及行糧修葺船隻堅固

並新造三板船壹隻同二十五日見有順風使他開船我等同二十七日歸家

復命

康熙六十一年壬寅二月十五日奉 使為進貢大夫本年十一月十日同耳目

官毛弘健具志川親雲上盛富在那霸開船到馬齒山候風本月十六日彼地

開船到古米山候風二十六日彼地開洋三十日到福寧州橫山洋面衝礁破

船進貢表文方物及上下員役共一百二十人俱沉失無存

采地

康熙五十一年壬辰六月十七日拜授佐敷間切屋比久地頭職

康熙五十三年甲午二月十七日轉授名護間切松堂地頭職

寵榮

康熙三十二年癸酉十一月二十七日自 佐敷王子尊諱益公為榮旋之儀特賜扇子貳握上紙一束

康熙三十八年己卯二月二十五日 上大喜唐榮中繁生宣臣等隨紫金大夫

蔡鐸志多伯親方等于南御殿賜宴 時通事以上皆有賜宴自正議大夫以上在御書院 上辱自陪宴自中議大夫以下在南御殿御書院諸臣陪宴

康熙三十八年己卯十月初一日 上特嘉教授御書院樂生以中華歌之等恩賜彩花緞子大帶乙條紋綿綢壹疋白綿綢壹疋

康熙四十年辛巳為存留時十月二十七日自 聖上為臚恩賜燒酒壹壇

康熙四十年辛巳為存留時十月二十五日自 讀谷山王子尊諱益公為臚恩賜燒酒二瓶國分烟二十結扇子一匣 藏二烟袋四枝

康熙四十四年乙酉為接貢都通事時十一月八日自 聖上為臚恩賜燒酒壹壇大佳蘇三連

康熙四十四年乙酉為接貢都通事時十一月七日自 中城王子尊諱純公為臚恩賜燒酒二瓶扇子壹匣 藏三烟袋四枝野風呂壹個

康熙四十四年乙酉為接貢都通事時十一月初六日自 讀谷山王子尊諱益公為臚恩賜燒酒二瓶扇子乙匣 藏三烟袋四枝大佳蘇二連

康熙四十五年丙戌四月二十八日自 中城王子尊諱純公恩賜諸白乙樽國分烟二十二結土器二個茶碗一匣菜皿四匣除盃乙個酒次乙匣

康熙四十七年戊子為北京都通事時十一月十八日自 聖上為臚恩賜燒酒壹壇大佳蘇三連

康熙四十七年戊子為北京都通事時十一月十五日自 中城王子尊諱益公為臚恩賜燒酒二瓶國分烟壹拾結烟袋四枝大佳蘇二連

康熙四十八年己丑在閩時十一月十三日自 聖上寄賜扇子乙匣 藏三國分烟壹十二結

康熙五十七年戊戌為接封正議大夫時十月初九日自 聖上為臚恩賜絲棉壹舩國分烟貳拾五結燒酒壹壇

同年九月二十一日自 國母毛氏野嵩按司加那志為臚恩賜絲棉壹舩烟筒二枝

康熙六十一年壬寅將出使時 國王遣使賜五本入扇子四匣杖原二束烟袋

十對國分烟五十四結白麻三束練蕉三端燒酒壹壺 王母 野嵩按司加那志 賜絲綿壹把國分烟二十結

康熙六十一年壬寅十一月三十日大船覆沒時小船員役雖見之不能撈救一直到閩省詳報督撫兩院兩院具題啓奏

皇帝憐憫遠巨勅部行文福建督撫兩院令布政司脩祭品於海岸遙祭於是布政司奉 憲令擇于雍正元年五月二十日在水部門外新橋頭貢船灣泊之所致祭論祭文一道左記

皇帝諭祭琉球國貢使耳目官毛弘健正議大夫陳其湘都通事蔡垣通事鄭元良使者毛思聖楊世昌通事楊大成官生蔡用佐蔡元龍鄭師崇之靈曰德被寰

區異域識尊親之戴恩覃遠使儀文兼存歿之榮慰此悃忱用昭矜恤惟琉球國貢使毛弘健等僻居薄海來享中朝遠道忽際夫狂瀾陪臣遂淪於巨浸嘉

爾王之有禮憫將命之何辜特沛殊恩奠以牲醴嗚呼仁同覆載不遺胥溺之臣澤及幽遐聿示同風之化靈如不昧尚克歆承

雍正元年六月小船官員回國將大船覆沒事啓聞 國王矜憫溺死上下員役命法司令御物奉行脩辨祭品擇於本年七月十二日遣僧到祭於天久濱

婚嫁 長男弘訓娶久米村蔡文溥前祝峯親方女真鶴金得病而卒因此又娶杜氏我

喜屋親雲上良意女塩滿金 次女真鶴金適李良幹久里通事

三女思津奴適紹氏喜屋武筑登之親雲上隆秀

四女眞牛適吳氏我那霸子保章

(14) 梁燭 国吉通事 (筆帖式)

十世通事燭

國吉通事童名加美字得照行四康熙十四年乙卯十一月七日生康熙四

十一年壬午六月十五日卒享年二十八

父邦翰

母鳳氏真鶴那霸新垣親雲上實次女

室阮氏真秘樽康熙十五年丙辰十一月二十五日亥時生康熙六十年辛丑

六月三日卒享年四十六

長男經 次男綸

官 爵

康熙二十八年己巳二月十九日初為若秀才 賜年俸米五斗

康熙二十八年己巳八月十四日結歆髻舉秀才 賜年俸米一石

康熙三十三年甲戌三月二十五日陞通事 賜年俸米二斛

助 庸

康熙三十九年庚辰十一月因有進貢之便請乞

王命為讀書習禮事隨上京都通事兄鋪入闕滯留三年至于

康熙四十一年壬午六月十二日在閩開船走到半途暴風大起遂被舟破而亡

此可痛哉此誠可惜哉

寵 榮

康熙三十二年癸酉十月二十九日 王世孫 尊諱益 為薩州榮旋之儀特賜上

紙乙束扇乙匣

康熙三十四年乙亥十一月十一日 王世子 尊諱純 恩賜上紙乙束扇子乙匣

康熙三十六年丁丑十月十三日移家于普門寺時 王世子恩賜錫乙双

康(熙)三十八年己卯二月二十五日

國王喜唐榮臣繁生自通事以上官皆蒙 特召賜宴此時自紫金大夫至申口

座正議大夫侍宴御書院自正議大夫□□□賜宴于南御殿

婚 嫁

長男經娶那霸西村牛氏崎濱親雲上秀筆長女真滿金

次男綸娶首里崎山村豐氏兼ヶ段筑登之親雲上元仲次女真蒲戶

(15) 毛士弘 伊地通事 (筆帖式)

四世通事士弘

和字慶里之子童名眞三良字子毅文善第次子也康熙十五年丙辰正月

十三日子時生康熙四十一年壬午二月初四日不祿享年二十七葬于福

建福州府南過江上渡陳坑地方

父文善

母查氏

室馮氏眞蒲戶

長男自泰 童名德千代康熙三十九年庚辰三月十五日辰時生雍正三年乙巳六月二十四日不祿享年二十六

(官爵・勲庸)

康熙二十八年己巳八月十四日初為若秀才

康熙三十年辛未二月十九日結歆髻陞秀才

康熙三十二年癸酉十一月二十七日恭蒙 王世孫佐敷王子尊諱益公為自

薩州榮旋之儀賜上紙壹束扇子貳握

康熙三十三年甲戌十二月初二日擢通事陞筑登之座敷

康熙三十八年己卯閏七月二十一日請乞 王命為讀書習禮事隨接貢都通

事鄭士綸赤嶺親雲上本年十一月十八日那霸開船赴閩讀書習禮之間奈

壬午二月初四日染病逝

(16)楊宗詩 山口秀才(筆帖式)(楊姓家譜)

三世若秀才宗詩

童名五良美字孟言行一康熙十四年乙卯五月初三日酉時生康熙四十

一年壬午六月十五日不祿享年二十八

父春榮

母梅氏

室衛氏眞伊奴金康熙十八年己未五月二十三日卯時生(雍正五年丁未

五月十七日卒享年四十九)

女眞津路康熙三十七年戊寅六月二十日酉時生

官 爵

康熙二十八年己巳二月十九日為若秀才(賜年俸米伍斗)

康熙三十一年壬申八月二十二日結歆髻舉秀才

康熙三十三年甲戌二月初一日擢筑登之座敷

助 庸

康熙三十三年甲戌二月初一日為進貢事奉使為總管于本年十一月初四日

隨耳目官翁敬德佐久眞親雲上忠祐正議大夫蔡應瑞高良親雲上等開船

赴閩公事已竣翌年乙亥六月十一日歸國

康熙四十年辛巳二月初一日為接貢事奉使再為總管隨都通事梁成楫屋比

久親雲上才府温允俊本部親雲上紹有等赴閩公務已竣六月十二日在閩

安鎮開船至于十五日遭逆風破船沒於海中

寵 榮

康熙三十二年癸酉十一月二十七日依

王世孫佐敷王子(尊諱益)上國還御有頒賜時宗詩拜領上紙壹束扇子貳

握

(17)毛日新 奧間秀才(筆帖式)

四世諱日新

奧間里之子親雲上童名塩樽字銘菴行一康熙十四年乙卯九月初九日

子時生康熙四十八年己丑六月二十八日不祿享年三十五

父文英

母李氏

室魏氏思玉康熙十六年丁巳十二月初三日丑時生

乾隆四年己未四月十七日卒享年六十三

長男承慶

長女思戶康熙四十六年丁亥正月初十日辰時生乾隆二十七年壬午七月

朔日卒享年五十六

官 爵

康熙二十七年戊辰八月十三日為若秀才

康熙二十九年庚午八月十五日結歆髻舉秀才

康熙三十五年丙子九月二十八日擢筑登之座敷

康熙四十年辛巳十二月朔日陞通事

助庸

康熙三十五年丙子二月朔日為進貢事奉 使為總管十一月二十二日隨耳

目官毛天相池城親雲上安倚正議大夫鄭弘良大嶺親雲上赴閩次年五月

二十八日歸國

康熙三十八年己卯二月朔日為接貢事奉 使為總管十一月十八日隨都通

事鄭士綸赤峯親雲上赴閩

康熙四十一年壬午題請附進貢存留通事曾曆砂邊通事親雲上赴閩為習禮

讀書事 國王准其請十一月十一日那霸開洋二十四日到閩乙酉年六月

二十四日附進貢都通事毛文英奧間里之子親雲上在閩開洋走得數日陡

遭颶風東西難辨或不動髮隨潮流漂流遂飄到土佐國清水地方時土佐大守

禮待甚厚于十一月初十日蒙 薩州大守遣讚良權左衛門殿等引路因此

二十日轉到薩州內裏地方又到魔府翌年丙戌二月十六日坐駕原船歸國

康熙四十五年丙戌九月初六日為漢字筆者勤職二年 賜年隨職俸 米貳石伍斗

康熙四十六年丁亥二月初四日為接貢事奉 使為存留通事十一月二十九

日同使者毛有論(倫カ)安宝親雲上盛福赴閩公事全竣四十八年己丑六月十三

日在閩開船走得數日遭颶風將舟覆沉遂不歸國

寵榮

康熙三十二年癸酉十一月二十七日 王世孫佐敷王子尊諱益公為自薩州

榮旋之儀賜上紙壹束扇子貳握

婚嫁

長男承慶娶儲氏安里筑登之親雲上成慶女真鍋

(18)金簡 多嘉良秀才(筆帖式)

十世通事諱簡

童名思德字承符行一康熙十四年乙卯二月十八日卯時生康熙四十

一年壬午六月十五日不祿享年二十八

父元遂

母蔡氏

室馮氏思戶康熙十六年丁巳九月十一日生 乾隆二十九年甲申八月初六日死壽八十八

長男鼎童名平藏饒波秀才康熙三十二年癸酉十一月初九日卯時生正議

大夫梁邦基饒波親雲上因無嗣子為過房繼其後

次男蕨

官爵

康熙二十七年戊辰八月初七日為若秀才

康熙二十八年己巳八月十四日結欵髻學秀才

康熙三十七年戊寅十二月初三日陞通事

勲庸

康熙三十八年己卯閏七月十九日奉 憲令為讀書習禮事隨存留通事蔡文

溥字久田親雲上赴閩至康熙四十一年壬午六月十二日福州開洋走得數

日不擬颶風大起本月十五日將舟覆沉遂不歸國

婚嫁

次男蕨娶那霸村廣氏神里筑登之親雲上宗文長女真嘉戶

寵榮

康熙三十八年己卯二月二十五日 上大喜唐榮中繁生宣臣等賜宴于南御

殿時通事以上皆有賜宴自正議大夫以上于御書院侍宴中議大夫以下于

南御殿□御書院諸臣陪宴

(19) 鄭士綬 宮城秀才(筆帖式)

五世若秀才士綬

宮城若秀才童名德千代號克章康熙十四年乙卯十一月二十四日申時

生康熙五十六年丁酉五月十日不祿享年四十三葬于南濱墓

父宗德

母習氏

室王氏康熙十六年丁巳二月二十日巳時生三十八年己卯七月十一日不

祿享年二十三

繼室眞牛金康熙二十五年丙寅八月二十六日午時生乾隆二十二年丁丑

十二月初八日卒享年七十二

男亮采

長女眞龜康熙四十四年乙酉九月十二日巳時生母眞牛金

次女眞伊奴康熙五十一年壬辰十月十三日丑時生乾隆三十七年壬辰四

月十六日卒享年六十一

官爵

康熙二十八年己巳二月十九日為若秀才 賜年俸米伍斗

康熙三十年辛未二月十九日結欵髻舉秀才 賜年俸米壹石

康熙四十三年甲申二月二十一日陞通事 賜年俸米貳石

康熙四十七年戊子二月初七日頂戴黃冠 賜年俸米貳石五斗

康熙四十九年庚寅二月十二日擢當座敷

康熙五十三年甲午二月初三日陞都通事擢于座敷 賜年俸米二石五斗雜石一石五斗

助庸

康熙三十六年丁丑請乞 王命為讀書習禮事隨都通事魏士哲渡具知親雲
上赴閩留七年四十二年癸未六月初七日五虎門開洋遇逆風漂至于大島
地方八月十日自彼地開船同十二日歸國

康熙四十七年戊子二月初七日為訓誥師 隨役賜年俸米二石勤職三年

康熙四十九年庚寅二月十二日為進貢事奉 使為在船通事本年十一月十

八日隨耳目官孟命時佐邊親雲上宗政正議大夫阮維新儀保親雲上那霸

開船到馬齒山候風二十九日開船到古米山候風十二月十九日開洋二十

八日到閩公事已竣次年七月初二日五虎門開船初六日到古米山灣泊二

十二日開船二十三日歸國

康熙五十三年甲午二月初三日為進貢事奉 使為頭號船在船都通事隨耳

目官馬氏與座親雲上良雄正議大夫阮璋萃宮城親雲上本年十一月二十

六日那霸開船赴閩公事全竣次年七月二十五日歸國

寵榮

康熙三十二年癸酉十一月二十七日自 佐敷王子尊諱益公為榮旋之儀特

賜扇貳握上紙壹束

婚嫁

長女眞龜適魏宗綱高嶺秀才

長男亮采娶倪氏山城親雲上賢孫女眞蒲戶再娶吳氏首里赤田村座間味

筑登之親雲上長女思戶

(20) 林天材 金城秀才(筆帖式)

十一世秀才天材 但シ廿二三歳ノ頃 承因ノ序著作

童名眞牛 號秀豊 康熙十七年戊午九月三十日卯時生同四十一年

壬午六月內自閩開船不幸逢颶風同十五日於海中卒享年二十五才

父諱謙 母翰氏思德

室劉氏乙康熙二十年辛酉十一月二十日生同六十年辛丑十一月初二日

卒葬于西浜之墓坐北向南 享年四十一

男永隆

官 爵

康熙廿八年己巳十二月初三日始舉若秀才

康熙三十二年癸酉二月十九日結欵髻舉秀才

勲 庸

康熙三十八年己卯請乞 王命為讀書習禮事十一月十八日隨接貢都通事

鄭士綸赤峯親雲上赴閩

康熙四十一年壬午六月內自閩開船不幸逢颶風同年十五日於海中卒

俸 祿

康熙廿八年己巳五月初十日為繼家恩賜知行高(壹)拾五石

婚 嫁

長男永隆娶王可法國場親方女真牛金也出之

再娶倫氏那霸當山親雲上秀文長女真吳瑞也

(2)阮瓚 真玉橋秀才(筆帖式)

五世瓚

童名眞樽號龍文行三康熙十七年戊午四月十日寅時生乾隆九年甲子

五月十三日不祿享年六十七葬于西濱之墓

父諱廷嘉

母虞氏思戶金

室眞吳勢祖氏高嶺筑登之良信次女康熙三十年辛未八月二十七日生乾

隆三十九年甲午□□七月死享年八十四葬于西濱墓

長女眞蒲戶康熙五十五年丙申十二月二十八日生

次女思戶金康熙五十八年己亥十月二□□□

長男繼漢

康熙二十九年庚午八月初為若秀才

康熙三十二年癸酉二月十九日結欵髻舉秀才

康熙三十七年戊寅八月三十日請乞 王命為學禮儀讀書事隨進貢存留通

事阮璋眞玉橋通事親雲上本年十一月二十二日那霸開船赴閩在于閩省

讀書七年康熙四十三年甲申七月十九日歸國

康熙四十三年甲申十二月二十七日陞通事

康熙四十五年丙戌四月十四日頂戴黃冠

康熙四十五年丙戌四月十四日為進貢事奉 命為小唐船脇通事隨耳目官

馬元勳宮平親雲上良康正議大夫程順則古波倉親雲上本年十一月二十

三日那霸開洋同二十九日到閩公事已全翌年丁亥七月十九日歸國復命

矣

康熙四十七年戊子二月十一日為講談師勤職□年

康熙四十八年己丑三月初四日陞當座

康熙四十八年己丑三月初四日再為講談師勤職三年

康熙五十年辛卯十月二十日陞都通事

康熙五十年辛卯十一月二十八日陞座敷

康熙五十年辛卯十一月二十八日奉 命為長史司勤職二年

康熙五十一年壬辰二月初七日為進貢事奉 使為赴京都通事隨耳目官毛

九經野里親雲上安尊正議大夫蔡灼福地親雲上翌五十二年癸巳二月十

二日那霸開船即日到馬齒山候風於本月十八日見有順風彼地開駕到閩

本年七月賽捧 表文貢物到京納貢時蒙

欽賞青藍大綵緞一疋紅素綢一疋毛青布四端跟伴每名毛青布四端且公務

全竣捧

勅書併欽賜貨物到閩次年甲午七月初六日福州開船行至半洋逢于逆風飄

到久志浦奉 命轉到魔府投納貨物本年十月初五日歸國

康熙五十四年乙未二月十二日奉 命再為長史司勤職二年

康熙五十五年丙申二月十九日為進貢併請封事奉 命為再赴京都通事隨耳

目官夏執中兼城親雲上賢年正議大夫蔡温末吉親雲上同年十一月十五

日那霸開船即日到馬齒山候風本月二十六日彼地開駕同日到久米山同

二十七日見有順風本地放洋開駕行至半途不意遇逆風潮浪大起船隻危

殆進退兩難無奈隨風行走過數日不見山幸于本年十二月初二日轉回到

久米山次年丁酉正月二十二日再行開洋本年二月初二日到閩安鎮外怡

山院灣泊本年七月十一日賽捧

表文貢物赴京于同年十一月初二日到京時蒙

欽賞青藍大綵緞一疋紅素綢一疋毛青標布四端跟伴每名毛青標布四端在

於京都進貢請封兩旨公務全竣次年戊戌三月二十九日捧

勅書併欽賜物件京都起行同年六月二十四日到閩且在于閩省公務全竣本

年七月歸國

康熙五十五年丙申五月二十日拜授宜野灣間切新城地頭職

康熙五十八年己亥四月十七日陸中議大夫三為長史司本年九月十八日坐

罪配流太平山雍正七年己酉七月五日蒙 上恩許罪歸國

康熙五十八年己亥七月九日轉授恩納間切山田地頭職

②蔡績 大田秀才(筆帖式)(蔡姓家譜)

十一世諱績大田通事親雲上

童名松字威熙行四康熙十八年己未三月十四日己酉日丑時生康熙四

十八年己丑六月卒享年三十一歲

父應祥

母梁氏

室馮氏真牛金諱石貞字正固康熙十九年庚申四月初五日卯時生(雍正

十年壬子十月二十七日子時死享年五十三本日葬富路之津部墓墓坐

巳向亥此墓是外先祖小谷子所傳也)

長男元龍

二男元鳳

三男元麟

官爵

康熙三十一年壬申八月二十日年十四歲為若秀才

康熙三十二年癸酉二月十九日年十五歲冠而作秀才

康熙四十一年壬午十二月初一日年二十四歲為筑登之座敷陸通事

康熙四十四年乙酉二月初八日年二十七歲頂戴黃冠

助庸

康熙四十四年乙酉二月初八日為訓誥師

康熙四十五年丙戌遣耳目官馬氏宮平親雲上良康正議大夫程順則古波藏

親雲上進貢時八月二十二日呈請隨存留通事蔡文漢高良通事親雲上赴

閩讀書習禮法司准之本年十一月二十三日在那霸開船赴閩至四十八年己丑六月歸國時遭大風至葉壁山洋面衝礁破船死於海中無尸骨

婚嫁

康熙五十四年乙未六月二十六日長男元龍年十六歲娶正議大夫阮璋雙牛

宮城親雲上女子思戶金

康熙五十九年庚子八月二十五日二男元鳳年十八歲娶都通事陳以栢幸喜

親雲上長女眞伊奴金

(23)蔡燠 喜友名秀才(筆帖式)

十二世諱燠 官爲都通事稱儀間親雲上

童名眞牛字伯和號篤友行一生於康熙二十年辛酉五月二十九日寅時

康熙五十三年甲午九月初三日因病而卒享年三十四葬湯屋前墓傳家

於弟垣也

父炳

母岑氏

室鄭氏眞嘉銘康熙二十三年甲子十一月初九日寅時生乾隆三十七年壬

辰四月二十九日戌時卒享年八十九

女眞牛生於康熙四十六年丁亥四月二十二日午時

官爵

康熙三十二年癸酉二月十五日爲若秀才

康熙三十五年丙子二月十六日結欝髻

康熙三十五年丙子二月十四日舉秀才

康熙三十八年己卯十二月初一日陞通事

康熙四十年辛巳十二月初一日頂戴黃冠

康熙四十七年戊子十一月三日擢邊達理座敷

康熙四十八年己丑二月十四日擢座敷

康熙四十九年庚寅二月十二日陞都通事

助庸

康熙四十三年甲申二月初一日奉 使爲進貢存留通事十一月二十四日隨

耳目官溫開榮森山親雲上紹長正議大夫蔡肇功牧志親雲上那霸開洋到

馬齒山同二十七日到久米山同二十九日開船十二月初三日到閩留在三

年蒙

欽賜青雙經大緞一疋青藍素綢一疋藍標布四疋跟伴四名各賜標布四疋公

事既竣至於四十五年丙戌六月十三日五虎開洋十八日歸國

康熙四十七年戊子十一月初三日爲講解師 賜年俸米二石五斗 勤職二年

康熙四十八年己丑二月十四日拜授長史司 隨職俸祿高二十石 勤職二年

康熙四十九年庚寅二月十二日奉 使爲進貢都通事十一月十八日隨耳目

官孟命時佐邊親雲上宗政正議大夫阮維新宜保親雲上等那霸開船到馬

齒山同二十九日到久米山候風翌十二月十九日在久米山開船二十八日

到福州公事已竣次年七月初二日五虎開洋于同六日到久米山候風同二

十二日彼山開船二十三日歸國

康熙五十三年甲午二月初三日奉 使爲進貢上京都通事奈本年八月臥

病至九月初三日卒奉使之事不果

寵榮

康熙四十九年庚寅十一月十七日奉 使爲進貢都通事將赴閩之時自國主

尊諱益特賜中纏三十個小杉原三束

采地

康熙三十三年甲戌八月十八日襲父職拜授宜野灣間切喜友名地頭職

康熙三十七年戊寅十一月九日轉拜授兼城間切武富地頭職

康熙五十一年壬辰六月十七日再轉授小祿間切儀間地頭職

俸 祿

康熙三十三年甲戌八月十八日為繼家統恩賜知行高四十斛

婚 嫁

女真牛金適周大猷富村通事

(24)程搏九 古波藏秀才(筆帖式)

八世秀才搏九

古波藏子童名思五良字元扶行一康熙二十年辛酉七月十六日巳時生

康熙四十一年壬午七月十七日亥時不祿享年二十二歲葬于世親墓

父 順 則

母 陶 氏

室王氏思乙登康熙二十年辛酉十月二十九日辰時生康熙三十七年戊寅

九月二十一日不祿享年十八葬於若狹町後山角真多瀬之墓

官 爵

康熙三十二年癸酉二月十五月初為若秀才 年俸米 伍斗

康熙三十五年丙子二月十六日舉秀才加元服 年俸米 壹石

勲 庸

康熙三十六年丁丑四月初四日奉 憲令為抄歷代實案筆者迄十一月三十

日抄完

(25)鄭国棟 湊川秀才(筆帖式)

十三世副通事國棟字廷維

仲井真通事親雲上童名真德號惠橋行一康熙二十一年壬戌正月初一

日生康熙四十八年己丑六月二十九日不祿享年二十八

父 明 良

母 陶 氏

室趙氏康熙二十年辛酉十二月二十日生乾隆三十一年丙戌五月二十三

日未時卒壽八十六號莊靜

長男師谷 次男師崇

長女真蒲戶康熙四十六年丁亥正月十八日巳時生

官 爵

康熙三十二年癸酉二月十五日為若秀才

康熙三十五年丙子八月二十二日結欵髻擢秀才

康熙四十二年癸未十二月十八日陞通事頂戴黃冠

勲 庸

康熙三十七年戊寅二月十六日為漢字假筆者 勤職 六年

康熙四十二年癸未十二月十八日為漢字筆者 勤職 四年

康熙四十五年丙戌十一月請乞 王命為習禮學文事隨正議大夫程順則古

波藏親雲上赴聞上京在館四年同四十八年己丑六月自聞開洋遭颶風覆

船不幸終於海中

寵 榮

康熙四十五年丙戌將赴聞時十月十四日從 東宮中城王子尚純公賜扇五

握乙匣扇二握乙匣國分烟乙包烟入乙個

康熙四十五年丙戌十月十六日又賜琉球筆二枝同墨五丁佳蘇乙十個

康熙四十五年丙戌十一月初一日又賜諸白乙樽扇五握乙匣百田紙二束小

坂原三束足袋二足佳蘇十個

康熙四十五年丙戌十一月初三日特賜 東宮御筆字帖乙卷金扇二握薰香

錫二盒

康熙四十五年丙戌十一月初五日又賜橘子二十粒

康熙四十五年丙戌十一月十四日又賜錫乙双燒酒乙壘百田紙乙束小板原

乙束國分烟二十結足袋乙足烟筒乙双扇三握薰香錫乙盒花露乙貝簪付

乙貝昆布乙觔

康熙四十五年丙戌十一月十五日又賜小板原二束國分烟五結昆布乙觔橘

子乙籠

康熙四十五年丙戌將赴閩時十二月十五日從 王世孫讀谷山王子尚益公

賜錫乙双百田紙二束國分烟十結扇二握乙匣

婚 嫁

長男師谷娶紅氏都通事伊指川通事親雲上永祚長女眞龜也

次男師崇娶倫氏當山親雲上秀文三女眞龜也

長女眞蒲戸適三男毛如苞和宇慶秀才

②蔡温 志多伯秀才(筆帖式)

十一世温 官至法司稱具志頭親方

童名眞蒲戸字文若號魯齊行二康熙二十一年壬戌九月二十五日子時

生 乾隆二十六年辛巳十二月二十九日巳時卒于正寢壽八十歲號精一顯文葬于平良墓

父前任協理府總理司 俗叫 紫金大夫 俗叫 紫冠 加授法司品銜 俗稱三司官座 志多伯親

方諱鐸字天將號聲亭乃 元祖升亭公諱崇十世孫也 順治元年甲申十二月八日寅時生乾隆七十年致仕雍正二年甲辰十二月十六日戌時卒于正寢享年八十一葬于南京墓

母葉氏眞吳瑞乃泊村葉氏 諱必達 號梅岳 順治二年乙酉十一月十八日子時生乾隆二十九年丁巳六月十五日未時享年九十三卒于正寢葬于南京墓

室向氏眞松金乃首里向氏 諱嗣 孝 前川親方朝年第五之女母夏氏 湛水親方賢忠之女思戶金

康熙二十四年乙丑正月初六日丑時生 乾隆二十七年壬午三月十一日得病卒于正寢壽八十二号慈温妙和葬于平良墓

附

〔中略〕

温初娶那霸蔡氏渡久地親雲上政包女思戶金既而出之再娶泊村相氏上

運天筑登之親雲上英章女眞如姑樽享年十八因病而逝俱無生息遂娶向

氏眞松金

女子眞吳瑞康熙五十年辛卯七月初四日巳時生 温先已生男兒未幾而殤不勝之憂時會都通事毛世安富祖里翼康健無恙故温具疏稟明此事乞以爲嫡弟焉

長子翼

婚 嫁

雍正五年丁未十一月十六日女子眞吳瑞嫁于翁氏 諱能 寬 我如古親雲上盛

致第六子 諱文 達 我如古盛陽時眞吳瑞蒙

聖上賜島袖乙端摘形縐紗二丈 國母毛氏聞得大君加那志賜蠟色大綾

二丈大紅縐紗二丈 國妃馬氏佐敷按司加那志賜枯黃大綾二丈魚肚白

卜院縐二丈又蒙 聖上及

國母 國妃各位遣使賀賜御玉貫乙雙

雍正六年戊申三月十六日長子翼蒙 聖上以長女思眞鶴金按司妻之 此日遺御

書院東氏天願 且以温家甚狹之故改賜家宅于本村而移徙焉 改賜之詳見于龍榮

親方政嘉定約

見于龍榮

見于龍榮

雍正十二年甲寅正月初九日奏允本年十月恭行婚禮此日奏立媒氏首里大

阿武志良禮婚礼司尚氏浦添親方朝夷武氏富濱親雲上崇賀等三月十七

日尚氏思眞鶴金按司加那志蒙賜南風原間切津嘉山按司掛而稱津嘉山

按司加那志此時大親武氏眞境名親雲上崇信麻氏石嶺親雲上眞良麻氏

前田親雲上眞本黃八卷儀者二員筑登之儀者二員赤頭奉公七人皆奉

命而立焉八月初三日撰吉行納采禮俗叫ハ、キ御酒十三日行納吉禮俗叫中入

二十六日行納幣禮俗叫大御籠飯九月初九日蒙

大美御殿賜米五石二十二日行請期禮俗叫カタリ御籠飯十月初四日行合卺禮

俗叫御祓引明日夙興行婦見舅姑之礼又明日行全慶禮俗叫三日御祝儀初九日翼及

室尚氏蒙 大美御殿行婿見禮俗叫御婿入時賜翼杵原二束扇子一匣握五

賜室尚氏茶色綾一端赤苧布一端十七日蒙

聖上 國母 國妃為賀婚事幸於敝宅時賜母葉氏御花一飾御玉貫一雙

溫及室向氏翼及室尚氏各賜御花一飾御玉貫一雙此時恭獻御膳二十三

日蒙 聞得大君御殿初召翼及室尚氏時賜翼上紙一束扇子一匣握五賜

室尚氏島細一端細力翌年正月十八日行拜祠禮祠堂在久米村故至遲延

官爵

康熙三十二年癸酉二月十五日為若秀才俸米五斗

康熙三十五年丙子八月二十二日結欵醫學秀才俸米壹石

康熙三十九年庚辰十二月初一日擢通事俸米貳石

康熙四十一年壬午四月初六日擢黃冠俸米貳石伍斗

康熙四十七年戊子二月初四日陞遇達理官俗稱當座

康熙四十九年庚寅十月二十一日陞都通事俸米貳石伍斗

康熙五十一年壬辰十二月二十四日陞察侍紀官俗稱座敷

康熙五十三年甲午八月初一日陞正議大夫俸米肆石

康熙五十五年丙甲二月二十五日陞申口座

康熙五十八年己亥七月二十八日陞紫金大夫俗稱紫冠

康熙五十九年庚子八月十三日陞法司品銜俗稱三司官座

雍正六年戊申十月初一日陞法司官與力二員儀者二員遵例賜焉

乾隆元年丙辰正月初六日陞紫地浮織冠位

乾隆十七年壬申十月初二日陞紫地五色花織冠

助庸

康熙四十一年壬午四月初六日任訓誥師勤職三年

康熙四十六年丁亥二月二十二日任講解師翌年二月為進

貢事因奉 命赴閩乃還其職

康熙四十七年戊子二月初七日奉 命為進 貢存留官務兼奉 憲令學習

地理事本年十一月初三日隨耳目官向氏福地親雲上朝貴正議大夫毛文

哲許田親雲上等那霸開船馬齒山候風又到久米山候風本月十七日日到

閩省所有公務之事照例施行恭荷 欽賞大花緞一疋素綢一疋青布四端

跟伴四名每名青布四端且在福州時遍尋地理先生幸遇劉先生就從他精

學地理悉受其秘書及大羅經一面己丑冬接 貢船隻到閩乃蒙公府發賜

白銀參拾兩以脩雜費之用劉先生諱日鬻字希開號瑞徵長樂縣人乃劉氏八賢之裔也又有鬼界島百姓位

薩哆等六名被風飄到浙江省境內石浦地方船破登岸浙江巡撫姓黃具

題奉旨就將位薩哆等六名通送到閩時溫奉布政司提奉憲令前到衙門而

領位薩哆等六名並具呈乞糧米而贍養焉凡公務全終庚寅六月二十日五

虎開船二十九日回國復 命

康熙五十年辛卯三月初一日授長史本年十一月二十七日因病辭職

康熙五十年辛卯四月 日因 王世子諱敬當甲午仲夏赴薩州之期而隨從

官吏員役此日奉 命各任其職以脩行裝之務時溫 奉 命辱授師職兼

務近習職事翌年壬辰七月十五日 聖上諱 薨 世子登大位故此
行不果

康熙五十一年壬辰十二月二十四日因 聖上敬諱 御歲十三登大位溫奉

命任國師職國師職自溫始 時有憲令曰國師之職非徒講諸書折章句而已須能

孜孜竭力教 聖上開心修德以正出治之本此國師之職也溫以任職之重

恐惶無措然人臣之道無言可辭謹任其職而尽心竭力或道之或充之或弼

之或承之晝夜孜孜如臨淵谷是誠人臣之重任而百世之榮事也翌年癸巳

五月十八日以溫在久米村而不便于公務之故特賜家宅率領妻子移居于

首里 其宅在西平等赤平村而前有大街後靠山林

康熙五十四年乙未八月初二日于聖經賢傳百家諸書之內撿取先聖之嘉言

前哲之懿行及切於日用躬行之實者而纂成一部顏曰要務彙編有江左宣城馮祉岐西氏

及閩王登瀛閩州氏兩位先生序文 恭呈 聖覽

康熙五十五年丙申二月十九日為進 貢兼請封事奉 命為正議大夫本年

十一月十五日全耳目官夏氏兼城親雲上賢年那霸開船二十六日馬齒山

開洋走到洋中暴風大起十有九危幸荷天庇十二月初二日飄回久米山修

葺船隻及帆檣等物越年丁酉正月二十日開洋二月初二日前至閩省凡公

務之事照例施行七月十二日福州起身十一月初二日到京初寓會同館後寓毘陵菴 初

四日上表進貢請封表奏咨文一齊呈上 未幾日 皇太后薨 皇上及百官每日臨喪廢暇

理事但請 封一事所關極重溫等心意忙慌無力可致漸至翌年戊戌正月

初八日納 貢此時儀制司精膳司主客司等官專管請 封之事日要禮物

提督止管進 貢一事耳由是溫等請 封之事十有九敗二月初七日禮部

正堂大人兩位侍郎大人兩位列坐于後堂叱退諸官止召球官入廳內溫等

不知其意如何恐懼無地但見正堂大人親自寫字以問云康熙四十八年國

王貞堯該應遣使請 封此

天朝大典也有何緣由遲延至今然後請 封溫等跪誦即自寫字而答云康熙四十八年貞王薨遣使報喪至五十年喪服已除當五十一年進 貢之理

合請封奈王世孫尚益辭世又遣使報喪至五十三年喪服已終故今照例請

封正堂又寫以問云康熙五十一年王世孫益辭世至五十三年喪服已終

則五十四年理合請 封有何緣由遲延至今溫又寫以答云康熙五十四年

乃接 貢之期非進 貢之期古來敝國請 封之例必當進 貢之期兼能

請 封在案是故俟至五十五年進 貢之期照例請 封大人各位覽罷起

身溫等退出回館延至本月十九日請 封事情奉 旨允其所請三月十一

日發賜 欽賞物件及咨文此時溫蒙 欽賞花緞四疋羅三疋絹一疋綢四

疋跟伴九名每名青布四端三月二十三日 皇太后出葬既而二十七日拜

領 勅書公事全竣二十九日出城四月初二日張家灣開船晝夜倍道以行

六月二十四日纔回福州所有公事照例全終七月十一日離驛登舟奈無順

風八月初三日五虎開洋初九日歸國復 命仍務國師職

康熙五十七年戊戌十二月十九日因那霸江泥積水淺船隻難通尚氏本部按

司朝智等奉 命疏淪川源浚濬霸江既告其成爰奉憲令以作碑記

〔中略〕

康熙五十八年己亥當 冊封天使賁臨之期 聖上及百官預習漢禮溫奉

命每日進城專掌演禮但此番除 冊封天使徐海 外有測量官豐平 奉 旨

來臨而隨 封員役兵丁凡六百數十員名所帶貨物極多本國所貯銀兩不

過五萬兩由是評價事情大致齟齬而員役人等失利含怒八月以後所有公

事十有九破無力可施溫又奉 命全法司翁氏伊舍堂親方盛富竊寓于久

米村而公務之事不論大小千態萬般竭力尽心總理其事時 冊使徐公賜

詩一律曰 中郎才品果無倫兩鬢青々映紫巾柳檻春風倍講席星軺金葉

請皇綸霸江碑上鴻文麗首里坊邊賜宅新最羨堦堦聯錦帶朝回雙奉白頭

親即日溫就用其韻賦謝一首其詩曰先生德望本超倫愧我慵才列紫巾鳴
珮鳳池承帝澤浮槎鰲島捧皇綸詞聯錦繡吳綾燦筆掃龍蛇表墨新最喜良
緣深受誨春風座裏得相親但唱酬之間雖有風雅之趣而評價事情千變萬
化不勝之憂在蕘間不覺年光經過至于翌年庚子二月十六日諸事全終
冊封寶船照例開洋既而本年八月計功授爵之時溫陸法司座數

〔中略〕

雍正二年甲辰十一月初八日為中山世譜正誤補闕以明前代事具疏如左

(原文章書)

覺 隋唐宋元世代東南之方ニ琉球國有之由知及、態与招撫之勅使被
差遣候得共、其時迄ハ御當地ニ進貢不被遊升々与濟來候、大明洪武
皇帝御時、察度王様初ハ唐ニ進貢被為遊、夫ハ以来節々勅使被召渡
ハニ付琉球之様子善惡共委細録ニ為被相記儀、疑無御座ハ、然共勅
使御渡海毎ニ右委細之録秘密ニして一向不被殘置間ニ琉球録とて大
抵之書付計被殘置方有之迄ニ御座ハ、御當地ニ日記等細數無之、
前羽地王子口傳杯を取交、漸御系圖相調、前代之儀ニ荒増相記迄ニ
御殘念ニ為被思召由風聞仕ハ、然處幸此節勅使徐老爺ハ大明以來
委細之録色々相働写取致細見ハ、琉球前代之儀悉被記置ハ、依之
御世譜引當相考ハ得々御世譜之儀、筋違并載落杯之事餘多有之候、
右録を以御世譜御札被遊ハハ前代明國ニ可罷成与奉存ハ間、乍恐
存寄之趣申上候、以上

十一月八日

末吉親方

由是國相法司具題奉旨即命溫改修世譜以成全部溫謹奉

聖旨改修世譜并歷代總論一篇以為萬世儆戒之鑑

附 崇元圓覺天王天界四廟原是奉安 神主混雜參差無有定規竊惟崇元則往昔以來春秋
二仲以中華之禮祭之每會 冊封大典則 天朝論祭之禮亦有行于此廟實非私廟之所較
也故請歷朝即位者奉安此廟而為即位昭穆之廟未及即位者決不加焉即位次序以明矣圓覺
天王天界三廟乃非歷朝之廟亦非 論祭之所關故圓覺則 尚穆王以下正統昭穆

者不論受 封與不受皆尊稱王號奉安此廟而祭之天王則為正統王妃昭穆之廟而非妃位者
決不加焉天界則請可受國唐者而為昭穆不關之廟(溫)謹以此事具題奉 旨依議然後四
廟規模大定且復康熙三十八年以 尚懿 尚久係 先王生父之故追尊稱王載在王統圖中
而昭穆不序竊惟他雖 先王之生父非係乎正統昭穆者則 王統圖中決不可加焉故亦具
題奉 旨依議另修 至于翌年乙巳纂修告成之日兼編議定一冊具啓呈覽
其啓如左

其啓如左

紫金大夫加授法司品銜現任 國師臣蔡溫謹 啓臣溫讀麟經而知一王
之義讀詩書而知制作之難夫禹湯文武則創業垂統之大聖也然風化百年
而後成制作累世而後修蓋制作若斯之難也維我國初 天孫氏以無為關
治而姓名事功莫可稽考者以載記未備之故也自 舜天踐祚而來國俗革
變政法審具迄我 始祖金丸王承 天命登 大位集 前王之大成創萬
世之鴻業禮樂政教教化之治燦然大興而較諸前代規模則天壤懸隔猗歟
休矣傳至 質王恭逢皇清定鼎文明益開卒以歷代事功及 祖德宗功昭
穆親疎之非輕特命按司向象賢始用番字著中山世鑑一部然前代紀籍頗
致湮沒象賢深為之嘆既而 貞王嗣立斯文大明如日中天仍

命總宗正尚弘德等改以漢字重修世鑑顏曰中山世譜時臣溫之父紫金大
夫臣蔡壽奉 命手修世譜亦以前代難考而嘆焉方今恭遇 聖上殿下修
德崇道百度悉舉康熙己亥受 封之時臣溫在 冊使徐公處獲琉球沿革
志及使錄等書委曲讀之始知象賢所著世鑑果有誤差兼多缺闕豈非前籍
湮沒之所致也哉臣溫奉 命改修是譜蓋是譜也續前謨光後緒而垂鑒于
萬世誠非巨溫樛材之所及然而今不正焉則前代履歷之事其何以得明之
爰以其所獲之書與夫本國記傳及隋唐宋元之史傳採旁搜互致參考昔之
所誤今始正之昔之所缺今始補之以成全部繇是我琉球國自 天孫氏啓
宇以來世統興發政治美惡及昭穆親疎之屬燦然足昭昭然足稽而譜事全
備矣於戲西周之有天下也文武以大聖創業成康以大賢承統然後始稱威
正罔缺蓋制作若斯之難也伏願居今稽古綜千聖之心為心修己治人集百

王之善為善而政治之美麟趾之祥與天地俱垂矣臣溫編輯告成謹繕呈覽伏乞 上鑒俯賜察奪為此具 啓以 聞 雍正三年二月廿日 世譜編畢呈覽

之日蒙 聖上召溫等于御書院侍宴時國相法司並總宗正與溫共得侍宴經歷以下在于御番所給膳至于本年十二月二十七日清繕告成之時又蒙聖上深喜召

溫御書院侍宴並賜溫御杯嘉獎功勞宴畢在於下庫理更賜御掛物二幅 仇英 島細四端綿子四把 時國相法司並總宗正與溫共得侍宴經歷以下召賜御酒 並在于御番所給膳亦總宗正以下於下庫理皆給實有差

雍正三年乙巳正月奉 命改修服制行于國中先是本國服制略具而族戚親

疎之辨多失其序由是具題奉 旨改編服制而族戚親疎之序燦然以明焉

雍正六年戊申正月六日被許駕安駁

雍正六年戊申十月初一日因法司馬氏名護親方良意告老致仕而溫任法司

官兼務國師職

本年一月十八日兼任 大美御殿及 聞得大君御殿惣大親職

雍正十年壬子九月二十七日兼任御物座職

雍正十三年乙卯八月十六日溫奉 命前至羽地依法決川以安百姓原是

國頭府羽地縣民田極廣內有大川其源出于萬山間馳至羽地遂起氾濫之憂窃按本國決水無法灣々曲々皆非順流之性故每霖雨加水則逆流洶湃衝破民田拳縣之民年々修之補之而不能免其痛本年年七月暴雨大興川水送怒而羽地民田為洪水所壞其憂既極無力可施溫奉 命為決川修田事前赴羽地此時隨溫務決川之事者御物奉行毛氏田里親方盛價高奉行向氏澤岷親方朝衛向氏祢霸親雲上朝意加勢高奉行武氏奧原親雲上崇滿且奉 命從溫學決川之法兼務其事者向氏本部按司朝隆向氏美里按司朝孝向氏浦添親方朝夷 時在御書院奉行 向氏識名親方朝栄 時在寺社奉行 夏氏系數親雲上賢厚 時在御物奉 行吟味役 本月二十一日齊起身二十二日前至羽地改決其川時由法司毛氏美里親方安滿告老致仕而九月二十五日識名親方奉

旨入京授法司職馬氏富島親雲上良連毛氏手登根親雲上安因奉 命為加勢奉行而務其事但奉行十員筆者二十四員分為十隊朝出夕歸依法決川兼修民田乃至十一月十七日既終其功百姓大安十八日起身二十日回

京辱蒙 聖上幸于浦添驛以俟溫之復 命更賜溫等御菓御茶翌年正月六日溫陞紫地浮織冠位時賜御筆御感之狀老條 發賜此狀自溫而始 及金織錦帶

老條 按司親方奉行五員每員賞賜御掛物一幅綿子二把黃冠奉行五員每員賞賜直上布三尺筆者二十四員醫士一員每員賞賜直上布一疋 御感之狀曰

(原文書書)

去七月大風雨、羽地川致破損、民田忘失之處、御自分水利之傳有之、殊百姓之為不被顧辛勞被致下知、且又數輩以相傳幾百世國家之為相

成感悅之至候、為忠恩紫浮織八卷給之子孫可被申傳候、謹言

中山王

御姓諱御判

正月六日

具志頭親方殿

本年十二月十日溫奉 命總理諸縣山林之事原是本國無能知山林之法者而國人逐年加繁山林逐年增衰由是中頭府內棚原山林已絕北谷讀谷山越來美里具志川五縣山林殆絕國頭府內恩納名護金武本部今婦仁五縣山林漸衰美材已絕唯羽地大宜味久志國頭四縣猶是稍有美材耳再歷數十年則一國當用之材必有欠焉而未如之何也已矣溫等議奏此事乃設奉行三員令武氏富濱親雲上崇賀管于北谷讀谷山越來美里具志川棚原等處令馬氏富島親雲上良連管于恩納名護本部今婦仁等處令東氏高安親雲上政副管于金武久志羽地大宜味國頭等處溫奉 命始以山林之法而督其事

乾隆元年丙辰十一月十三日溫奉 命率領御物奉行毛氏奧平親方安(三高) 奉行東氏天願親雲上政房等巡見諸縣山林時國相向氏北谷王子朝驛

法司向氏識名親方朝榮奉 命從溫經過恩納名護羽地三縣悉学山林之法而十二月十三日回京溫等仍巡諸縣翌年丁巳正月十四日方氏立津親雲上全得毛氏天願里之子親雲上榮政毛氏識名里之子親雲上盛始向氏源河親雲上朝義向氏真玉橋里之子親雲上朝忠奉 命而來從溫經過國頭久志金武三縣悉学其法既而三月三日回京之日辱蒙 聖上幸於浦添驛以俟溫之復命更賜溫等御料理御濃茶

附羽地山林内有吳我桃原我部松田振慶名五座之村名護山林内有山饒波村皆有愚民放火燒以脩農地而山木殆絕本部縣内有崎濱石加波健堅邊名地等村集在一處農地最狡動燒山林以作農地由是奏允以山饒波吳我等村移居于山林外以石加波村移居于瀨底島時因今婦仁山林甚狹乃以吳我村等山林之地屬諸今婦仁縣而各縣得定山林農地之分焉亦國頭縣内奧村至安田四里安波至久志縣川田七里皆為山林所隔而村民最苦往來之遠由是奏允山林之外擇地于奧村安田村之間建村一座安波村川田村之間建村一座以脩村民往來之便且溫恐山林之法歷年已久而有失其傳則山林之憂亦將至焉由是編修山法式一冊奉行規模一冊恭脩 聖覽令山奉行三員能行其法而擴其傳矣

乾隆二年丁巳五月溫奉 命始教農田經界之法先是本國雖有農官之設正法未立田界變易或彼侵此或此侵彼其訟蜂起而農官不堪其勞且山林原野亦各相侵而百姓不堪其憂溫奉 命始教其法大定農田併山林原野各定其界然後農官免乎煩勞百姓免乎爭訟

乾隆六年辛酉十二月十四日溫因測影定漏荷蒙賞賜御掛物二幅 王若水山水畫 島細四端綿子四把原是本國雖有漏刻之設刻分差錯殆非漏刻之正法由是乾隆四年己未十二月初七日溫奉 命即令匠人始造測影定漏器物自翌年庚申二月春分之候在于西原間切幸地村帽子峰之地恭測日影改定漏

刻此時隨溫務事員役乃奉行官馬氏與座親雲上良之毛氏伊良皆親雲上盛成益氏古波津筑登之親雲上里恒筆者吳氏久高筑登之親雲上幸孝益氏古波津筑登之里嘉也馬氏與座至四月染病而逝毛氏高良親雲上盛傳奉 命續務其事吳氏久高至閏五月因疾辭職童氏玉寄筑登之長休奉憲令續務其事相俱晝夜在于帽子峰之地測影試漏溫每值節候往查其事至于乾隆六年辛酉十月初七日既終其事撤移漏器於漏刻門且漏刻守役本令螺赤頭看守恐非敬天重時之禮乃 命黃冠六員更番輪流以看守焉 首里三員唐榮三員著為定規 此日奉行三員每員賞賜綿子三把筆者二員每員賞賜綿子一把 既而本年十二月十四日溫等受賞如前

乾隆十年乙丑三月朔日奉 命任御物座職及總理國中御支配方之事乾隆十二年丁卯八月十五日為督查中頭國頭等處山林事率領御物奉行官毛氏安里親方安明鎮官向氏源河親雲上朝義等員本日起程前赴中頭查見山林轉赴國頭十月十七日在大宜味間切時蒙 聖上遣御近習官駱氏吳我筑登之親雲上春倫賜摺御茶二頭切麥麩一箱雜味醬一壺十一月初四日歷到國頭間切邊戶村此時楷船掃國有 總州公計音由是仍率員役即日起身初七日回京諸務全終本月二十七日仍率員役復赴國頭此時為傳受林法事有御物吟味官蔡氏濱川親雲上廷儀及向氏伊是名里之子親雲上朝祥翁氏眞米城里之子親雲上忠孝毛氏糸滿里之子親雲上盛昭等奉 命隨溫而起身十二月十六日歷到安波村時蒙 聖上遣賜麥麵一箱色豆腐七連本月二十六日在奧間村時蒙 國母毛氏聞得大君加那志遣使賜麥麵一箱事務全竣翌年二月初八日回京此日恭蒙 聖上幸浦添驛俟溫之復命因賜御茶御吸物 此時所率員役皆樂賜焉

〔中略〕
乾隆十八年癸酉八月朔日值 主上歲十五將行元服之禮溫奉 命為御鳥

帽子親本月十一日恭務其禮時賜十本扇子乙匣素緞乙疋文細三端更從
内院特賜赤地金織錦大帶乙條水色金織錦大帶乙條此日加賜與力一
員

乾隆二十二年丁丑四月初八日告老致仕先是溫歲七十一正欲致仕任法司二十五年

奈 封船臨國諸務甚重是故權免溫退職養老而不免致仕這番 冊封典

禮全竣 天使回京溫歲七十六乃得告致仕 自法司而至致仕凡歷三十年 此日長子翼繼

統蒙賜具志頭間切惣地頭職併知行高貳百斛

俸 禄

康熙五十一年壬辰十二月二十六日賜國師職俸八石 外有正議大夫年俸六石共計乙十四石

康熙五十八年己亥七月二十七日因陞紫金大夫轉賜知行高五十石

雍正元年癸卯四月二十二日加賜知行高三十石 共計八十石

雍正六年戊申十月初一日因任法司職加賜知行高三百二十石 共計四百石

乾隆十七年壬申十月初二日被免法司職賜知行高八十斛且為養老事年賜

俸米二十斛 詳見助庸

采 地

康熙五十二年癸巳二月二十七日任勝連間切神谷地頭職

康熙五十五年丙申七月二十三日轉任西風原間切末吉地頭職 (1714)

雍正六年戊申初二日轉任具志頭間切惣地頭職

寵 榮

〔下略〕